

いつでも,どこでも社会人に優しいオンライン大学院

日本大学 大学院 総合社会情報研究科

通信制大学院

■ 博士前期課程 | 2年制 |

国際情報専攻
文化情報専攻
人間科学専攻

■ 博士後期課程 | 3年制 |

総合社会情報専攻

創設23年,選ばれる
7つのポイント

2023

幅広い学問分野を網羅。 「学びたい」気持ちに応える オンライン大学院。

実社会における自分自身のグレードアップのために
幅広い分野を学ぼうとしている方に自己実現の場を提供。
年齢・場所などの制約を越え、多彩な学修方法を利用して
勉学の意欲を持ち続ける社会人の方に
「いつでも、どこでも」学べる環境を整え、
日本大学は皆さんの入学をお待ちしています。

博士前期課程（2年制）

博士後期課程（3年制）

国際情報専攻
学位：修士（国際情報）

人間科学専攻
学位：修士（人間科学）

文化情報専攻
学位：修士（文化情報）

総合社会情報専攻
学位：博士（総合社会文化）



日本大学大学院
総合社会情報研究科

研究科長 松重 充浩

研究科長からのメッセージ

グローバル化、高度情報化社会、気候変動といった、21世紀に入り誰の目にも明らかになった諸状況は、多様かつ急激な変化を現代社会にもたらすと共に、様々な不安や格差あるいは差別、更には暴力的衝突を含む紛争の多発化、生態系の破壊などといった課題となって私たちの日々の生活を直撃しています。

本研究科では、これらの課題解決に向けて必要となる、言い換えれば、明日を生きる力の獲得を可能とするカリキュラムが、既存知識の単純再利用に止まらない、深い教養に裏付けられた問題発見能力と柔軟な知的創発力の修得を可能とする相互に関連する三つの中核的な専門領域内の諸科目と多様で柔軟な履修スタイルにより準備されています。

それぞれの生活環境と両立させながら、知的探究心と学位取得の希望に燃える皆さんの入学を心から期待しております。

Contents

03 「日本大学」が選ばれる
7つのポイント

05 **博士前期課程（2年制）**

07 **国際情報専攻**

経営・経済／国際（関係）・政治

専任教員紹介／特別研究指導テーマ紹介

13 **文化情報専攻**

文化研究／言語教育研究

専任教員紹介／特別研究指導テーマ紹介

19 **人間科学専攻**

哲学／心理学／教育学／

医療・健康科学／スポーツ科学

専任教員紹介／特別研究指導テーマ紹介

29 **博士後期課程（3年制）**

総合社会情報専攻

31 **国際情報分野**

専任教員紹介

33 **文化情報分野**

専任教員紹介

35 **人間科学分野**

専任教員紹介

37 **専攻別学修アドバイス**

39 **入学試験・学費概要**

博士前期課程／博士後期課程

42 **学生データ（博士前期課程）**

学生数：年齢層別、職業別、地域別

総合社会情報研究科 修了者数

入試状況

43 **キャンパス・学修環境**

44 **日本大学教育憲章**

45 **3つのポリシー**

・ディプロマ・ポリシー

・カリキュラム・ポリシー

・アドミッション・ポリシー



創設23年で
修了生1,430名の実績。
「日本大学」が選ばれる

7 つの ポイント

1 働きながら学べる「在宅学修」がベース。

科目の学修は、テキストを読み込んで内容をまとめて、レポートを提出する「在宅学修」が学びの基本。空き時間に学べます。

2 「オンライン」でも「対面」でも。学生の都合に応じた個別指導を実施

困ったことをそのままにしない。「直接話したい」「メールで解決したい」などの都合に応じて教員への相談手段を選べます。

3 学生一人ひとりの生活スタイルを指導教員が把握し、配慮して対応

特別研究（ゼミ）は「個別指導」を徹底。いつでも、どこでも学生のニーズに応じて、指導が受けられます。

4 スクーリングの必修は3日間のみ

在学中に必要なスクーリングの受講は1回、3日間のみ。
（博士前期課程・5月に3日間集中で実施予定）

5 アクセス便利な都心のキャンパス

キャンパスは、東京・市ヶ谷。特別研究（ゼミ）は、予約を取って、直接指導が受けられます。

6 どこでも参加OK！「サイバーゼミ」で充実した学び

オンライン上でゼミ生が集まる「サイバーゼミ」。ネット上で情報交換、研究指導を受けられます。

7 学生同志のつながりが深まる。ゼミ合宿（希望者のみ）などを実施

通信制大学院でありながら、ゼミ合宿などで、直接交流を深められる機会があります。

博士前期課程

(2年制)

専攻・コース一覧

専攻	コース	研究内容	
国際情報専攻 学位:修士(国際情報)	経営・経済コース	経営学分野の基礎スキル(経営戦略,組織運営,マーケティング,アカウントing)を修得したうえで,ファミリービジネス,地方創生,国際分業,経済開発などの幅広い視点から経営・経済分野に関する研究に取り組むことができます。	P09
	国際(関係)・政治コース	国際的な視点として重要な持続可能性(SDGs)に関して理解すべき知識を修得します。また,国際関係上の諸問題の理解,中国の軍事戦略などの分野の他,国内では政治・行政が取り組むべき課題について研究することができます。	P11
文化情報専攻 学位:修士(文化情報)	文化研究コース	文学・演劇・映像・メディアなど,さまざまな文化について研究を深めます(西南中国民族,日本古代文学,日本近現代文学,比較文学など)。また,翻訳の理論と実践,多様な文化間の情報伝達や相互理解についても学べます。	P15
	言語教育研究コース	言語学修・教育についての最新の理論を踏まえ,ICTを活用した言語指導・学修方法を学びます。研究領域は日本語教育学,言語テスト,英語教育学などがあります。	P17
人間科学専攻 学位:修士(人間科学)	哲学コース	社会哲学,ロジカル・シンキングや現象学を中心とする現代哲学の,主に20世紀以後の西洋現代哲学を研究します。人間の存在について十分な理解力を持った人材育成を目標としています。	P21
	心理学コース	産業・組織心理学の視点から公共社会や企業などで不公正,不公平感が及ぼす心理的影響や,自己と対人関係といった社会心理学を研究します。生活などの場で起こる問題を解決できる人材を育成します。	P22
	教育学コース	社会的に着目度の高い,現代の教育課題に対応できる人材を育成する,教育方法論,教育思想,教育心理学,学校教育学などを研究します。	P23
	医療・健康科学コース	ヒトの健康の向上に関して医療・福祉,生命科学の分野を研究します。健康で安全な生活を実現するための科学的な知識を身につけ,人々のQOLの向上を追究します。	—
	スポーツ科学コース	スポーツ運動学,スポーツ医学,スポーツ心理学,コーチングの視野からスポーツのより良いあり方を研究します。	P25

入学から修了までの流れ (博士前期課程の例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録指導 (ゼミ) 特別研究指導 (ゼミ) 4月以降随時 	<ul style="list-style-type: none"> スクーリング ※ 				<ul style="list-style-type: none"> 前期レポート提出期限 				<ul style="list-style-type: none"> 最終レポート提出期限 		<ul style="list-style-type: none"> 次年度履修登録
2年			<ul style="list-style-type: none"> 論文題目の届出(1回目) 			<ul style="list-style-type: none"> 前期レポート提出期限 	<ul style="list-style-type: none"> 研究(中間)発表会 		<ul style="list-style-type: none"> 論文題目の届出(最終) 修士論文提出 	<ul style="list-style-type: none"> 最終レポート提出期限 学位の面接試問 		<ul style="list-style-type: none"> 学位記伝達式

※感染症等の状況によりスクーリング日程・開講方法を変更する場合があります。

特別研究(修士論文)の進め方(一例)

● 研究内容の提出と指導教員の決定

- 研究内容は, 事前相談時(出願前)に指導希望教員が確認
- 指導希望教員は, 原則, 事前相談時に決定

▼ 「研究計画書」の作成・提出

- 入学後, 指導教員と相談し, 受験時に作成した「研究計画書」に基づき, 具体的な研究時期・研究方法も含めて再作成・提出(1年次前期)

▼ 「研究計画書」に基づき個人研究

- 特別研究指導(ゼミ), 科目履修を通じて研究計画に沿った学修やその周辺領域の学修を重ねる
- 指導教員からの指導, ゼミ活動, 科目履修は, オンライン会議システム, レポート提出システムなどを活用

▼ 「草稿」の作成・提出

- 中間発表会までに「研究計画書」に基づき, 研究を進め草稿を作成する
- 中間発表会では, 草稿の内容を踏まえた発表となる

▼ 中間発表会

- 修士論文の完成に先立ち, 2年次の10月に, これまでの研究成果(途中過程)を発表する機会がある(任意)
- 今回の発表を通じて, 研究内容に対する教員からのアドバイス, 他学生との意見交換により, 修士論文の完成に向けて, その情報を有効活用する

▼ 「修士論文」作成・提出

- 2年次の12月に修士論文を提出するにあたって, 11月までには「最終稿」を指導教員に提出する
- 「修士論文」の提出時に, 「論文要旨」も併せて提出する
それぞれの字数・内容・補助資料等については, 指導教員の指示に従う

▼ 面接試問

- 「修士論文」を所定の期日までに提出し, 面接試問による論文審査を行う

国際情報専攻

グローバルな視野と鋭敏な感覚を持ち、
指導的かつ先端的な立場で現代的課題に取り組む人材を育成する

国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済及び国際(関係)・政治の分野で、指導的かつ先端的な役割を担い、国際化及び国内の政治・経済が直面する現代的課題に自主的に取り組むことができる資質・能力を持つ人材を育成します。

実務家は社会の現場で体験する問題の本質を見抜き、その解決に向けた論理的なアプローチ方法を提案するために必要な経営的スキルを身に付けることと、社会における問題との関係性を透徹する深い視野に基づいて、その解決策を実行できる能力の修得を目標とします。研究者にあつては、学際的な視点から顕在あるいは潜在している課題を発見し、論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力の修得を目標とします。



加藤教授の個別指導



前野准教授の指導風景

2つのコース

経営・経済コース

経営・経済コースでは、主に経営や経済に関するテーマの講義が設置されています。具体的には、経済理論及び経済政策に係る学び、グローバルな経営に必要なスキル、ファミリービジネス及び地方創生における問題解決に向けた視点を養うことができるように構成され、ビジネス領域で自主性を重んじ指導的な役割を担う能力の獲得を目指しています。

< 特別研究 論文題目例 >

- ・日本型生産システムの海外移転に関する考察
- ・日米欧多国籍企業の国際戦略比較
- ・邦銀のリテールバンキング戦略評価と今後の戦略方向性に関する考察
- ・企業統治の日台比較～米国企業改革法の視点から
- ・組織目標が組織行動に与える影響に関する考察
- ・企業の株主構成と企業価値
- ・ファミリービジネスの新規株式公開時における利益調整活動
- ・持続可能性を施行したCSR経営に関する研究

国際(関係)・政治コース

国際(関係)・政治コースでは、現代政治や国際関係を扱う科目群のほか、戦略情報及び危機管理を扱う科目群から構成され、環境、安全保障、開発、政治などのグローバルな課題を国際市民の観点から研究し対応する能力の獲得を目指しています。

< 特別研究 論文題目例 >

- ・「稲村の火」の遺産と濱口梧陵の防災思想
- ・明治40年北海道における狂犬病の発生と対策について
- ・現代日本における土地有効利用のための総合的土地政策に向けた一考察
- ・グローバル時代における国際分業の新たな展開と地域経済活性化
- ・人口移動の経済的要因に関する実証分析
- ・難民問題と安全保障
- ・観光立国を目指す日本のテロ対策
- ・『テロリズム』の定義付けの課題と展望

カリキュラム

国際情報論特講(4単位)・特別研究(6単位)が必修科目になります。
 その他に各自の研究テーマに関連する5科目(各4単位)選択し、修得します。

各関連科目は主に下記の2コースになりますが、各院生の研究分野により自由に選択できます。

必修科目	・国際情報論特講(4) ・特別研究(6)			
選択科目	経営・経済コース	・経済理論特講(4)	・人材マネジメント論特講(4)	・事業承継論特講(4)
		・国際経済政策論特講(4)	・多国籍企業論特講(4)	・事業創造論特講(4)
		・グローバル経営戦略論特講(4)	・流通ビジネス論特講(4)	・地方創生・振興論特講(4)
		・現代ファイナンス論特講(4)	・ビジネス法特講(4)	・ローカルビジネス論特講(4)
		・アカウンティング論特講(4)	・ファミリービジネス論特講(4)	
		・マーケティング論特講(4)	・ファミリーガバナンス論特講(4)	
	国際関係・政治コース	・現代政治学(4)	・危機管理論特講(4)	・国際メディア論特講(4)
		・国際法特講(4)	・組織倫理論特講(4)	・日中比較社会論特講(4)
		・国際政治論特講(4)	・日本政治史論特講(4)	
		・多文化共生論(4)	・都市計画論特講(4)	
・国際関係論特講(4)		・地方共生論特講(4)		
専攻共通科目	・調査分析特講(4)	・統計基礎Ⅰ(2)		
	・ゲーム理論(2)	・統計基礎Ⅱ(2)		

※都合により開講科目を変更する場合があります。 ※()は単位数です。

在学生の声



大学院での学びは実技の再確認と評価

職業人である自分自身に、経営活動、実務活動における確認と、認識できる絶好の機会です。日々漠然と業務を行ってきたが、経営においては人材マネジメントの学びで、人材雇用や配置、移動など一連の流れが個々単体でなく連動性を持ち、マネジメントの姿勢や在り方によって企業のカタチを見現化できること。また自身の実体験で培ってきた知見が学問を通じて再確認、再認識する絶好の機会が得られ、自身の仕事における方向性を明確なものとなって行くことを確信できました。さらに、数年間続いたりリモート開催のゼミが月に一度ペースでリアル開催することができ、同志のゼミ生と相互に研究の在り方や情報の共有ができ、独学でありがちな孤独感もなく研究にとり組むことができることは貴重な機会を得ました。大学院は通信教育という枠に偏らず組まれたカリキュラムは自身が能動的に取り組み、勉学のターニングポイントに絶大な機会を得、それが多くの課題解決につながります。

橋本 丈次

修了生の声



大学院での学修は、実践に役立つ学びでした。

大学院への入学を志望したのは、会社を設立してまもなくのことでした。会社を設立したものの、さまざまな困難に直面し、盤石なビジネスメソッドが確立していないことに気づき、専門知識を身に着けるために入学を志望しました。マーケティングでは、商品開発、商品販売のノウハウを専門的に学び、学んだことがさまざまなビジネスシーンでも役立つものとなりました。入学した年はコロナ禍で、不安を抱える中、丁寧な指導により疑問や不安に対し、熱心にサポートしていただきました。ゼミではリモート授業でしたが、担当教授をはじめ先生方、同級生や先輩方とのディスカッションを通じて学んだことを実践に役立てることができました。丁寧な指導をしていただき院生の仲間と共に知識を深められたことは、前へ進むきっかけとなりました。大学院で学び仲間と出会えたことが、私にとってかけがえのない財産になりました。

田中 洋子 (2021年修了)

経営・経済
コース



雨宮 史卓 教授

Amemiya, Fumitaka

最終学歴

1991年 獨協大学経済学部経営学科 卒業
1999年 日本大学大学院商学研究科商学専攻博士後期課程単位取得満期退学

主な職歴

2009年 日本大学短期大学部商経学科(教授) 2016年 日本大学通信教育部(教授)を経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

現代の広告・マーケティング研究には、客観的に調査対象を捉えるだけでなく、対象者に対する共感的な理解や分析者の主観的な解釈も求められている。そのため、先行研究の分析、データ収集だけでなく、多様化する生活者の価値観を把握する定性的アプローチを視野に入れて指導していきたい。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

マーケティング論特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

マーケティング戦略, ブランド戦略, 広告・プロモーション戦略, 消費者行動研究

② 特別研究の研究領域

本特別研究では、マーケティング全般を対象とし、ブランド構築, 広告コンセプト創造など幅広い分野を研究領域としています。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

現代は商品の本質的な機能だけで、企業が競争優位を勝ち取ることは不可能です。例えば、ファッション性の高い商品はブランド価値に代表されるように、感覚的・情緒的要素が重要ですし、実用性が重視される商品は、環境や世論形成に配慮するなどの社会的要素が中心です。また、芸術性に関わる映画や音楽に関しては、元来の消費者行動研究では限界があります。様々な製品・サービスにおいて実態をつかみにくい象徴的要素が重要視されているのが現状です。したがって、本特別研究では生活全体や文化、さらにはグローバルといった幅広い視点でのマーケティング理論の理解を目指し、消費者を生活者として分析・考察することを念頭に置きます。

④ 特別研究の進め方

院生各自の問題意識、関心のあるテーマ、さらには主体的な研究姿勢を尊重しつつ、相談の上、研究課題を決定していきます。論文作成のために、必要に応じて統一テーマのグループゼミ、個別面談指導も行いたいと思います。

経営・経済
コース



加藤 孝治 教授

Kato, Koji

最終学歴

1988年 京都大学経済学部, 2012年 日本大学大学院総合社会情報研究科総合社会情報専攻博士後期課程修了博士(総合社会文化)

主な職歴

日本興業銀行(現みずほ銀行), 三井物産(出向), 白百大学(教授)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

銀行在籍中に小売業界, 食品業界に対する産業調査及び営業業務に従事した経験に基づき, 小売・食品・物流産業を中心に経営戦略・経営組織研究のほか, ファミリービジネスに着目し, 具体的な企業事例に基づく論文指導を中心に行います。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

国際情報論特講, 人材マネジメント論特講, ファミリービジネス論特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

経営組織論・経営戦略論・ファミリービジネス研究・流通論・金融論

② 特別研究の研究領域

特別研究では、企業経営全般に関する研究及びファミリービジネス研究について指導します。企業経営に関する研究では、企業行動(戦略, 組織, マーケティングなど)の幅広い分野が研究領域です。消費・生活関連産業(小売・食品・医療)や、流通産業(物流など)に関わる産業構造も取り上げます。また、ファミリービジネスに関連する分野に関する研究については、事業承継やファミリーガバナンスなどが対象となります。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

企業活動やファミリービジネスに関する研究を行うにあたり、基本的な経営理論の理解は前提となります。科目履修を通じて、経営学の基本的な知識をマスターしてください。そのうえで実際にみなさんが感じている企業活動における疑問・問題点、ファミリービジネスに関する問題意識に基づいて研究に取り組んでもらいます。研究の際には、自分の問題意識に基づき具体的な情報の収集し、その内容を理論化・モデル化することで一般化を図ります。そのうえで、ゼミ生相互を通じて研究目的を達成できるように指導します。

④ 特別研究の進め方

特別研究では、テーマの絞り込みが最も重要です。最初にみなさんの持っている問題意識を解決するには、どのような切り口で、いつまでに何を考えるのが良いのかということ話し合い、テーマを絞り込んでスケジュールを作成します。アプローチの方法が決まったら、ゴールに向けて着実に研究に取り組んでいくのですが、その過程で、テーマの再設定、アプローチ方法の確認、研究に必要な情報収集、仮説作成などの問題に直面します。そのとき、教員からのアドバイスだけではなく、共に学ぶゼミ生同士の情報交換が有効です。コロナ禍の影響が続いていますが、ネットを活用することで、ゼミ生が集まるFacetoFaceの場が提供されます。仲間との多くのコミュニケーションの時間を作り一緒に研究が仕上がるように進めていきます。

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は[本学ホームページ](https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/)>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
<https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/>



経営・経済 コース



陸 亦群 教授

Riku, Yugun

最終学歴

2001年3月 日本大学大学院経済学研究科博士後期課程
修了 博士（経済学）取得

主な職歴

日本大学通信教育部（教授） 日本大学経済学部（教授）を
経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

現在の研究は、企業生産活動のグローバル化と地域経済との関連性を念頭に置きつつ、もの作りアーキテクチャのモジュール化と細分化分業との関わりに焦点を当てている。新しい国際分業関係、すなわち生産工程における細分化分業関係を前提として、日本には新興諸国との協業関係を意識した新たな成長戦略が求められ、グローバルな視点から地方創生について探究したい。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

国際経済政策論特講、特別研究

特別研究

① 専門分野

国際分業と経済開発、産業集積と地域経済、経済開発戦略

② 特別研究の研究領域

本特別研究では、国際通商政策、経済活動のグローバル化と地域経済を主な研究領域とする。国際通商政策の歴史的推移、世界経済のグローバル化の進展と新しい国際分業の出現、産業集積そして企業生産活動のグローバル化といった要因に着目し、地域経済問題、国際経済問題に対してグローバルなアプローチ、すなわち地球規模の政策視野をもって理論的実証的な分析を通して考察することを目指したい。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

院生各自の問題意識と主体的な研究姿勢を尊重し、研究課題を決定する。研究計画を作成し、それに即して研究指導を行うが、国際貿易と経済開発の分析視点に立って、理論と実証の両面から国際経済政策を分析する研究能力の育成を目指す。

④ 特別研究の進め方

主に以下のようなプロセスで研究指導を行う。

1. 研究テーマの選定
2. 研究計画の作成
3. 研究テーマ関連の参考文献目録の作成
4. 先行研究成果の概観と先行研究の内容検討
5. 研究方法の策定と資料収集
6. 研究内容を具体化し、論文作成に着手
7. 論文の構成案を作成し、中間報告
8. 論文の草稿を作成し、中間報告
9. 修士論文の完稿

経営・経済 コース



前野 高章 准教授

Maeno, Takaaki

最終学歴

2015年3月 博士（経済学）学位取得（中央大学大学院
経済学研究科）

主な職歴

学習院大学（非常勤講師）、敬愛大学経済学部（専任講師）、
日本大学通信教育部（准教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

「国際貿易は一国の経済を豊かなものにする」という視点のもと、国際貿易と貿易障壁の関係性について研究をしています。特別研究においては、経済活動と非関税措置の関係性を考察することを目的とし、国際的な制度設計が国内市場や海外市場における経済主体に与える影響について実証的・政策的なアプローチから研究に取り組みたいと思います。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

国際経済政策論特講、特別研究

特別研究

① 専門分野

通商政策と貿易障壁、国際分業と経済開発、グローバル化と地域経済発展

② 特別研究の研究領域

本特別研究では、国際貿易と通商政策、国際分業・海外直接投資と経済開発、グローバル化と地域経済発展を主な研究領域とする。グローバル化の進展に伴う国際貿易構造の変化、企業の海外進出に伴う国際分業の変化、国際制度の設計に伴う貿易障壁への影響、国際取引の円滑化に伴う地域経済活性化などの国際経済的要因に着目し、理論的・実証的・政策的な分析視点から、グローバル市場やローカル市場が抱える課題を分析・考察することを目指す。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

国際経済政策、特に通商政策、の分野において多面的な影響を分析する研究能力を育成することを目指す。研究課題は各自の問題意識と研究意義の両面から決定し、国際経済学の分析視点から修士論文の作成を試みる。

④ 特別研究の進め方

以下の項目に沿って修士論文の作成を試みる。

定期的な中間報告を実施し、論文作成のための研究指導を行う。

1. 研究課題の選定
2. 研究計画の作成
3. 研究課題関連の先行研究の収集と内容検討
4. 研究方法の策定および関連するデータや資料の収集
5. 研究内容や研究意義の確認と論文作成の開始
6. 論文の校正案を作成
7. 論文の草稿を作成
8. 修士論文の完稿

国際(関係)・
政治 コース



日吉 秀松 教授

Hiyoshi, Hidematsu

最終学歴

2003年 日本大学大学院国際関係研究科
博士後期課程修了 博士(国際関係)

主な職歴

日本大学スポーツ学部(教授)などを経て現職。

指導・研究における特色、プロフィール

中国政治体制の構造を解明するためには、文革の発生原因や目的を明らかにする必要があります。グローバル化によって経済の繁栄を遂げた中国では、文革研究などが実質的に禁止区域となっている背景もあります。こうした背景や関連資料をしっかりと収集した上で、Zoomやメールを使用し、通信制の特色を活かして指導をしていきます。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

国際関係論特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

国際関係学・現代中国政治史(とりわけプロレタリア階級文化大革命など政治運動に関する研究)・政治学

② 特別研究の研究領域

本特別研究では、日中関係や米中関係の変遷と、現代中国政治と対外政策の変化を研究領域とします。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

中国の各時期における内外政策の決定過程を明らかにし、日米両国の対中政策変化の原因を分析するよう指導します。院生自身が決めた研究テーマに沿って積極的に先行研究を調べ、関連資料を収集し整理したうえで、修士論文を完成させます。

④ 特別研究の進め方

教員の指導を受けつつ、研究方法と目的を明確にし、慎重にテーマを選定したうえで論文を作成します。したがって、本特別研究の進め方は以下の通りです。

1. テーマの選定
2. 研究計画書の作成
3. テーマと関係する先行研究の調べと整理
4. 参考文献や資料の収集
5. 仮説の立案と検証
6. 論文執筆
7. 第一次途中報告
8. 論文の修正
9. 第二次途中報告
10. 論文の修正
11. 論文の完成

国際(関係)・
政治 コース



松重 充浩 教授

Matsushige, Mitsuhiro

最終学歴

1991年 広島大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程
後期単位取得退学

主な職歴

日本大学文理学部史学科(教授)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

歴史学研究の基礎中の基礎である史料批判能力の向上と、修士論文における独創性獲得に向けて必須となる先行研究の調査・検討方法の修得を目指す指導を行います。その際、検討対象が内包する多面・重層性を発見できる豊かな他者理解力と多様な分析視角の獲得に向けての指導も行います。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

日中比較社会論特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

歴史学, 近現代東北アジア地域史, 近代日中関係史, 中国近現代史

② 特別研究の研究領域

研究領域は、19世紀末から20世紀前半の中国を中心とした東アジア史全般です。政治、経済、社会、文化の各領域のテーマが対象で、特に「満洲」「満蒙」と呼称された地域に関する研究は歓迎します。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

歴史学研究において、史料の批判的把握は必須となります。まずは、史料の批判的把握とは何かを確認し、その上で、皆さんが興味を持っている歴史事象の研究に取り組んでもらいます。研究では、先行研究と関連史料の収集・整理と、個別事実の抽出・再構成と歴史的意義の考察を通じて研究目的を達成できるよう指導します。

④ 特別研究の進め方

論文作成において、自らの問題意識を解決していくことを可能とする対象と分析方法を見つけ出すことは、必須の作業課題です。この作業において、歴史学研究で特に留意するべきことは、対象を分析しえるに十分な史料(記録)が存在しているか否かという点です。史料による裏付けがない歴史像の再構築は単なる「想像」でしかないからです。このため、特別研究では、最初に「問題意識の解決」において選択歴史事象がふさわしいかを、関連史料情報量に照らしつつ検討する作業を行います。ここを経て、いよいよ史料から確認できる事実の抽出と再構成を進めていくこととなりますが、その過程で、教員からの助言のみならず、ゼミ生同士の意見交換も、歴史事象が胚胎する多様性や可能性を見出していく上で重要です。特別研究は、この意見交換の時間確保にも十分留意して進めていきます。

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/



国際(関係)・
政治 コース



瀧川 修吾 准教授

Takigawa, Shugo

最終学歴

2009年 日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程修了 博士(政治学)

主な職歴

日本橋学園大学リベラルアーツ学部(専任講師, 准教授), 日本大学危機管理学部(准教授)などを経て現職。

指導・研究における特色, プロフィール

本研究科での指導・研究は、今年で4年目を迎えました。通信制ですので、基本はオンラインやメールを活用した文書のやり取りや添削指導が中心となりますが、希望者には危機管理学部のゼミ生との交流やビデオ会議による指導の機会なども設けます。やはり研究成果は、様々な人の前で公表した方が楽しいものです。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

日本政治史論特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

日本政治史, 日本政治思想史, 政治学

② 特別研究の研究領域

政治学における研究のアプローチ方法は実に様々です。担当教員の経歴を考えると、対象とする時代は、幕末から昭和までが望ましいです(平成・令和も対応できますが、古代や中世・近世は荷が重いです)。つぎに内容ですが、特定の事件や制度、政策、組織、人物の他、日本が対象ならば外交や地域、思想を対象とする研究も、共に学べれば楽しいので歓迎いたします。史料研究自体も行いますが私は政治学者であり、史学科卒ではないため、専ら古文書の解読を学びたい方は、遺憾ながら他をお探しください。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

皆さんが各々に選択する研究テーマにより、ポイントは変わってくるものと思われませんが、やはり修士論文の完成を第一に考えるべきです。入学までにある程度、興味関心を整理しておき、早々に優れた先行研究と出会えるように準備をしておきましょう。好奇心旺盛は歓迎すべき長所ですが、博士前期課程の二年間は一瞬です。年限を気にせず学問と向き合えれば理想ですが、まずは専門性の高い修士論文をしっかりと完成させ、どうしても心残りがあるならば、それらは博士後期課程で取り組みましょう。

④ 特別研究の進め方

まずは皆さん自身が研究テーマを決め、指導を受けつつ、必要な参考文献や資料を収集し、論文の適切なアウトラインを作り上げることが目標です。各自の力量やテーマにも拠りますが、通常このアウトラインは何度も作り直すことになるはずですが、大抵は欲張りすぎて、一冊の本でも纏めきれない壮大な議題設定をしてしまうからなのですが、これは決して無駄にはなりません。主題の周辺を把握することは、自分の論文の学術的意義を知る上で必要な作業ですし、今後の研究課題の発見にも繋がります。イメージとしては、周辺を広く学びつつ、これだというピンポイントを見定め、深く掘り下げると良いでしょう。

国際(関係)・
政治 コース



大八木 時広 准教授

Ooyagi, Tokihiro

最終学歴

1994年 日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程満期退学

主な職歴

日本大学危機管理学部准教授などを経て現職

指導・研究における特色, プロフィール

日本大学法学部, 同大学院法学研究科で政治学(国際政治)を学びました。現在、危機管理学部に在籍しますが、本研究科では国際政治学全般について扱い、なかでも欧州統合を中心にEUの危機管理的側面を研究対象とします。国際政治理論, 国際政治史, 地域研究の観点からアプローチしてください。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

国際政治論特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

国際政治学, 欧州統合研究

② 特別研究の研究領域

特別研究では国際政治学全般について扱います。その中には、国際政治理論, 国際政治史, 地域研究が含まれます。受講者の研究分野に合わせて上記の研究領域からさらに特定領域に絞り込むことがあります。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

特定の時代や事件のみに受講生の興味・関心が偏らないよう、大きな歴史的流れを意識するような指導を行います。また社会科学的思考法を意識した研究指導を心掛けます。受講生には自分の選んだ研究テーマが国際政治の歴史的流れの中でどのような意義と位置づけがあるかについて意識を持つことが求められます。

④ 特別研究の進め方

まず担当教員のアドバイスの下で各自の研究テーマを決めます。テーマ設定は研究の質にかかわる大事な作業ですので、時間をかけて行うこととなります。担当教員によってテーマ設定をし直すこともあります。次にそのテーマに関して参考文献や資料を探し作業に入ります。参考文献や資料の質と量も研究の質を左右しますので、入念な検索を行います。その後、入手した文献と資料を各自が読み込む作業となります。国際政治学は他の社会科学と同様、膨大な文献を読み込む作業が研究を進めるうえで必須となってきます。多量の読書を伴うことは覚悟してください。そうした読書を行う一方でテーマに関する分析を行います。この分析については国際政治学の場合、比較という手法が有効です。最終的に結論を導き出し論稿にまとめます。

文化情報専攻

グローバル・コミュニティに 寄与する文化エキスパートを養成する

多様な文化に対する適正な理解だけでなく、時代・地域・社会を超えて、伝播し変容を遂げる文化の可変的・動的な特質を十分に理解して、文化の受信・発信・媒介を行うエキスパートの育成を目指します。文化研究コースでは、比較文学を軸に文学や漫画など多様な文化的所産を歴史社会的文脈で理解する文化リテラシーを高めます。言語教育研究コースでは、国境を越えて移動する人々の言葉と文化の課題を理解し、それを踏まえた日本語教育や英語教育を行う資質・能力を高めます。2つのコースを両輪に、グローバル・コミュニティの構築に寄与できる文化翻訳者としての力の獲得を教育の目的としています。



スクーリングのワークショップ



オンライン合宿:保坂教授・島田教授合同ゼミ
—東京,香港,台湾などをつないで

2つのコース

文化研究コース

文化研究コースでは、比較文学、メディア文化論、翻訳論特講等で文化とその伝達について理論的に学びます。さらに、古代から近現代までの日本文化、中国語圏文化、英語圏文化などについても専門的知見を深めます。

< 特別研究 論文題目例 >

- ・「シャーロック・ホームズ」シリーズの邦訳における翻訳規範
：延原謙の訳文を中心に
- ・戦後における日本文学の英語圏での受容について
- ・オスカー・ワイルドの童話における魂の救済
- ・Higglety Pigglety Pop! Or There Must be More to Life 解説
—モーリス・センダックのこども観と死生観—
- ・災害時における宮沢賢治作品の受容と抵抗
- ・唐詩色彩語の文化的意味とメタファー表現に関する研究
- ・ふとんと量文化の一考察

言語教育研究コース

言語教育研究コースでは、第二言語習得論、言語教育学、日本語／英語教育方法論などの科目で、最新の学修法と指導法、授業デザインについて学びます。教育現場で活用できる実践的な知見とスキルの修得をめざします。

< 特別研究 論文題目例 >

- ・Moodleを使った協働学習デザインが学習動機に与える影響
- ・ウクライナ人日本語学習者の日本語オノマトベに対する音象徴認識
- ・JSL児童の読解力育成
- ・中学英語教育におけるシャドーイングの効果
- ・Japanese English as one of World Englishes through Comparing English Exams
- ・日本語と英語のほめの表現に関する比較研究
- ・「ために」と「ように」の誤用分析—意志の問題を中心に—
- ・サービス日本語教育における日本語教師支援ツールの開発と評価
—ホテルレストラン業務に特化したCan-doリストとルーブリック評価票—
- ・項目改訂がテストの精度に与える影響
—日本語オンライン・プレースメントテストを例に—

カリキュラム

文化情報論特講(4単位)・特別研究(6単位)が必修科目になります。
その他に各自の研究テーマに関連する5科目(各4単位)選択し、修得します。

各関連科目は主に下記の2コースになりますが、各院生の研究分野により自由に選択できます。

必修科目	・文化情報論特講(4) ・特別研究(6)			
選択科目	文化研究コース	・比較文学特講(4)	・アジア文化論特講(4)	
		・世界文学特講(4)	・英語圏文化論特講(4)	
		・翻訳論特講(4)		
		・メディア文化論特講(4)		
		・日本文化論特講Ⅰ(4)		
		・日本文化論特講Ⅱ(4)		
5科目 20単位 を履修	言語教育研究コース	・言語教育学特講(4)	・言語教育工学特講(4)	・英語教育方法論特講(4)
		・言語教育研究特講(4)	・言語教育デザイン論特講(4)	
		・言語学特講(4)	・日本語学特講(4)	
		・異文化間コミュニケーション論特講(4)	・日本語教育方法論特講(4)	
		・社会言語学特講(4)	・日本語教育研究法特講(4)	
		・第二言語習得論特講(4)	・英語学特講(4)	
専攻共通科目	・調査分析特講(4)	・統計基礎Ⅰ(2)		
	・ゲーム理論(2)	・統計基礎Ⅱ(2)		

※都合により開講科目を変更する場合があります。 ※()は単位数です。

在学生の声



大学院での学びは実技の再確認と評価

これまで携わってきた小学校英語教育や在住国アメリカの日本語教育の場で、ICTを活用して自律的に学べるような支援をしたいと感じ、英語教育、日本語教育、教育工学を通信制で学べる本大学院に入学しました。履修科目や特別研究での学修を通じ、興味があった3つの分野の新しい理論や研究の動向といった専門的な知識、レポートや論文執筆に必要なスキルの両方を習得できたことを実感しています。また、特別研究での先生のご指導や学生同士の意見交換といった双方向のコミュニケーションの場は、自身の研究に新たな視点が得られる有意義でわくわくする場であり、高いモチベーションの維持に繋がっています。教育のあり方の変化に応じて、教師は、常に学び続ける必要があると思います。本大学院で学んだ専門的な知識や研究のスキル、先生の教えや仲間との学び合いの経験は、生涯を通じて、主体的に学び続けるための基盤になると考えています。

江崎由利子 (言語教育研究コース2年)

修了生の声



幅広く学んだ経験が糧となり、日本語教師として大きく成長できました。

中国で日本語教師として働くうちに、教師用指導書や文法書における意志動詞と無意志動詞の曖昧さをどのように学生に説明するべきか考えたくなり、通信制で日本語教育の実績がある総合社会情報研究科に入学を決めました。仕事の合間を縫っての学修でしたが、主体的に学ぶ力が向上し、言語学の理論に基づいた分析や語用論・誤用分析を利用した授業の組み立てができるようになり、日本語教師として大きく成長することができました。印象深いのは、複数の訳者による魯迅作品の日本語訳を分析・評価し、文学の翻訳理論に触れた必修科目での経験です。研究に直接関係のない授業でしたが新鮮で面白く、新しい世界が開かれた思いがしました。入学前では難しかった「日本文学史」「日本語概論」「異文化コミュニケーション」などの授業も担当できるようになり、大学院で得た学びがすべて仕事に役立っていると実感しています。

犬伏 翔 (2019年修了)

文化研究
コース



清水 享 教授

Shimizu, Toru

最終学歴

2014年3月 日本大学大学院文学研究科 博士（文学）
学位取得

主な職歴

日本大学、明治大学、法政大学、東京学芸大学、東京農業大学、実践女子大学（兼任、非常勤講師）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（共同研究員）、国立民族博物館（共同研究員）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

東アジアにおける民族の文化、社会、歴史の研究を歴史学と文化人類学から進めます。東アジアの多様な文化、社会、歴史を多角的に把握することを目指します。また文化、社会の背景にある経済史や生態環境史の視点から立体的な研究を進めます。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

アジア文化論特講、特別研究

特別研究

① 専門分野

西南中国民族研究

② 特別研究の研究領域

中国雲南省や四川省のさまざまな民族を中心として東アジアと東南アジア大陸部のフィールドから、文化、社会、歴史の研究について対応したいと思います。歴史学、文化人類学、考古学などの学問分野からのアプローチの方法を指導します。研究課題は複眼的な視点による学際的研究や地域研究を進めるものでも構いません。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

自ら関心のある研究課題を設定し、その課題に一つの解答が出るように指導を進めます。各研究分野の基礎的な思考を学び、広い視点で研究課題を分析考察できるようにします。先行研究の把握、資料収集の方法を経て課題の分析考察を進めます。修士論文作成については理論上の問題がないよう丁寧な指導を心掛けます。

④ 特別研究の進め方

院生自ら研究課題を設定し、研究計画を立てます。研究アプローチの分野の方法論を把握しつつ、先行研究の整理を進めます。調査や資料収集の方法を検討し、データの蓄積を進めます。分析考察を進めつつ論文の構成を考えて、作成を進めます。課題設定から執筆までその都度、Eメール、サイバーゼミ、面接授業、面接指導で論文の指導を進めます。

文化研究
コース



野口 恵子 教授

Noguchi, Keiko

最終学歴

1999年3月 日本大学大学院文学研究科（国文学専攻）
博士後期課程満期退学

主な職歴

日本大学法学部（教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

基本文献を読みながら、どのような研究テーマが立てられるのかを模索することから始める。その際、日本の古代文学の表現性に着目したい。作品が成立した時代の論理に基づいた読み方を解明する必要があると考えているからである。そのため、取り扱う専門分野は日本文学に限らない。考古学・文化人類学・社会学・歴史学・地理学・芸術学など多岐にわたる。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

日本文化論特講Ⅰ、特別研究

特別研究

① 専門分野

日本古代文学、日本古代文化

② 特別研究の研究領域

主に、日本の古代文学・古代文化に関する研究領域を対象とする。それを、日本国内における問題として捉えることもあるが、東アジアからの影響を視野に入れながら考察することもある。また享受に関する研究、つまり平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代などの後世の人々が捉えた古代文学・古代文化を研究対象にすることも重要な研究だと考えている。一方で、高等学校の国語教科書も研究対象にしている。教材化された各時代の文学作品に対して、専門的な立場からその適否を評価し、今後のあるべき方向を提言する、もしくはどのような事情で教材となったのか、その歴史的な経緯や意義などを明らかにすることも必要だと考えている。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

院生にとっての修士論文は、それを書いた時の生き様を映すものだと考えている。従って、院生が現在興味を持っていることを研究テーマとして優先したい。しかし、限られた時間の中で成果を出さなければならないので、場合によってはテーマを限定するよう求めることがある。また、学外で行われている研究の現場を、自分の目で確かめることによって研究意欲が高まることもあるので、国内外で行われている学会発表、シンポジウム、講演会などへの出席も促す。院生自身が学会での研究発表を希望する場合は、その指導も行う。加えて、現地調査を奨励する。

④ 特別研究の進め方

まずは研究テーマに関連する資料収集と資料整理、その内容に対する問題提起を繰り返してもらう。こうした基本的・実践的な作業を通して論文構成を検討し、さらに考証を積み重ねた上で、最終的にはオリジナルな論証結果もしくは問題提起を明示してもらう。指導方法は、定期的なe-mailによる指導が中心になるが、日時場所を調整して直接指導も数回は行いたい。

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は[本学ホームページ](https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/)>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
<https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/>



文化研究 コース



山崎 眞紀子 教授

Yamasaki, Makiko

最終学歴

1998年3月 専修大学大学院文学研究科国文学専攻博士
後期課程修了 博士(文学)

主な職歴

バリ第7大学東洋言語学科(特別研究員)、北海道大学
文学部(兼任講師)、北海道大学大学院文学研究科(兼
任講師)、札幌大学(教授)、日本大学スポーツ科学部(教
授)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

私たちの想いを伝える言葉や文章は、時代とともにどのよ
うに表現されてきたのか、通史的にみることに興味が尽き
ません。作家の個性を縦軸に置き、時代や文化を横軸に、
文章の力に着目した新たな文学史を構築する夢を持ってい
ます。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

日本文化論特講Ⅱ, 特別研究

特別研究

① 専門分野

日本近現代文学

② 特別研究の研究領域

明治20年以降、現在までの日本文学を対象とします。言葉はその時代の文化や歴史を内包し、人間の無意識、心の動きなどから育まれた思想によって生み出されます。文化、歴史、思想、心理などを射程に入れて研究を進めていきます。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは受講生が何を追究したいのか詳細かつ具体的に説明できるまで、研究プランを丁寧に指導します。次にテーマに添ってフィールドワークも踏まえた資料収集の方法を指導します。各研究会、関連学会への導きを行い、研究方法の見聞を広める機会を多くもつための情報も提供します。

④ 特別研究の進め方

1年次の前期は文学研究の方法を学びます。後期は受講者の興味のある作品に寄り添い、どのような方法で分析していくかを検討したうえで、研究対象と目的、方法を明確にし、研究計画書をまとめます。先行研究を徹底的に読み、自らのオリジナリティを明確にしていきます。2年次は論文執筆準備に入ります。6月中旬までに論題、構成を決定し、7月下旬までに研究史をまとめます。8月中旬までに章構成のチェックを受け、すぐに執筆を始め、その成果を中間発表(10月中旬)で行い論文の第一稿としてまとめます。11月末に第2稿を仕上げ、12月末に完成稿を仕上げ、1月期日に指定された書式で清書して提出します。

文化研究 コース



秋草 俊一郎 准教授

Akikusa, Shun'ichiro

最終学歴

2009年 東京大学大学院人文社会系研究科修了博士
(文学)

主な職歴

日本学術振興会(特別研究員)、ハーバード大学(客員研究員)、東京大学教養学部(専任講師)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

20世紀以降の日本およびロシア・欧米の言語文化研究をひろくおこなう。その際、世界文学や翻訳理論における近年の議論を紹介する。フランコ・モレットやデイヴィッド・ダムロッシュの世界文学への近年の取り組みをときに講師自身の翻訳で紹介しながら、背景となった現代の文化状況について理解をうながしたい。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

比較文学特講, 世界文学特講, 翻訳論特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

比較文学(日本・英米・ロシアなどふくむ)、翻訳研究、世界文学

② 特別研究の研究領域

欧米や日本の言語文化、文学研究、翻訳研究、出版文化、それに準ずる文化研究であれば可能なかぎり対応したいと思っています。文献を丁寧に読むことをいとわない、知的好奇心にとんだ方を歓迎します。

以下に過去ふくめゼミ生の研究例をあげておきます。もちろんこのような研究でなくてはいけないということはありませんが、参考までに。

- 1) シャーロック・ホームズの邦訳の研究。数あるホームズ訳の歴史を調べ、どのような訳文が主流になったのか探求する。
- 2) 現代日本文学が英語圏でどう読まれているのか。戦後の日本文学の、主にアメリカでの受容について、出版社や翻訳などさまざまな観点から研究する。
- 3) 中国のノーベル文学賞受賞作家莫言の世界的な受容について。チャン・イーモウによる映画化、ノーベル文学賞受賞、翻訳などの観点から分析する。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

院生一人一人が関心ある研究課題にとりくみ、修士論文を完成できるよう指導します。研究課題の妥当性や、資料収集、議論展開、論文執筆など、ひとつひとつ段階的に指導をおこないます。それぞれの関心にもとづき、国内外の関連学会・国際会議やシンポジウムなどに参加するよう求めます。

④ 特別研究の進め方

ゼミ生全員参加のサイバーゼミと、関心に応じたグループでのゼミをおこないます。個別ゼミ・個別指導・面談も、要望や必要に応じて随時おこなっています。学会への引率などの活動もあります。院生同士の発表を通じて発表力や批判力を、小グループのゼミで文献読解力や語学力、専門的な知識を身に付けていきます。修士論文の提出が近くなるにしたがい、個別で添削指導や内容についての面談が増えていきます。

言語教育研究 コース



川嶋 正士 教授

Kawashima, Masashi

最終学歴

1992年 上智大学大学院外国語学研究所言語学専攻博士
後期課程中途退学 修士（文学）

主な職歴

山形県立米沢女子短期大学英語英文学科（専任講師）、日本
大学工学部（教授）を経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

英語学、英文法、英語教育における史的研究であれば、国内・国外にかかわらず幅広く研究を行う。また、英語学と英語教育の歴史的接点についての研究も行う。共時的な視点から研究されがちなこれらの研究領域で、現在みられる体系が構築される前に、何が行われ、どのような進化が見られたのか研究することは、共時的研究にも深みを持たせられる還元性の高い研究内容である。統語理論の内的進化のみならず、学制改革などの社会的因子を含む外的な要因の与えた影響も考察した学際的な研究も行えるよう対応したい。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

英語学特講、特別研究

特別研究

① 専門分野

英語学、教育英文法、英文法史、英語教育史

② 特別研究の研究領域

英語学や英文法、もしくは、これらの英語教育への適用に関する研究であれば、幅広く対応する。国内外の教育英文法の変遷に関する通時的な研究や、言語理論で示された知見の教育英文法への還元についての共時的な研究など研究領域に入る。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

研究ではfeasibilityとsustainabilityが鍵となる。前者は、自分のテーマについて知識や能力の点で実行性が担保されているか、後者は、2年間を通して継続的に研究でき、期間内に研究をまとめられるかを重視する。その上で、先行研究を深く広く調査し、波及効果のある新規な知見を示すことができるよう指導したい。

④ 特別研究の進め方

各自が設定した研究テーマについて、先行研究や文献を調査研究し、多角的な視点から分析する。前期1年次において、大学院における研究の進め方について学修する中で、関心を抱く分野における先行研究を概観し、歴史的意義や、現代の視座からの問題点について考察する。2年次では、研究計画を推進する中で、第1稿を作成するにあたり、オンラインのミーティングを複数回行い、お互いの研究に関するコメントなどを通じ学びあい、研究を深化させる。これらのフィードバックをもとに研究を昇華させ、年内にゼミで論文の内容について発表し、そのうち推敲する。最終的には指導教授による指導を受け、最終稿を提出する。在籍中は、様々な学会へ参加し、発表を行う機会も提供する。発表準備や学会でのフィードバックも研究に反映させたい。

言語教育研究 コース



島田 めぐみ 教授

Shimada, Megumi

最終学歴

2006年9月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理
社会行動科学講座博士課程修了 博士（心理学）

主な職歴

日本貿易振興会国際交流部（ビジネス日本語担当アドバイザー）、東京学芸大学留学生センター（教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

学習者主体の教育へのシフト、学習者の多様化、社会のグローバル化などにより、日本語教育のあり方も変容しつつある。その中で、広い視野に立ち、研究を行う能力を重視する。また、先行研究における研究の位置付けを明確にし、正しい研究手法を選択できるよう指導する。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

言語教育研究特講、日本語教育方法論特講、特別研究

特別研究

① 専門分野

日本語教育学、言語テスト、言語接触、ビジネス・コミュニケーション

② 特別研究の研究領域

日本語教育全般、社会言語学に関わるテーマについて対応する。具体的には、教育現場における教授や評価の方法の検討、教材分析、言語テスト、ビジネス・コミュニケーションに関する理論や実践研究、社会言語学的現象の検討、習得研究などが考えられる。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

研究には、適切な研究テーマを設定すること、研究を遂行するための方法に関する知識を持っていること、実際に行動する能力を持っていること、この3点が重要である。そのため、テーマの設定の仕方や研究・分析方法などについて学ぶ場を提供する。そして、それぞれ関心のあるテーマにおいて、これらのことを実践し、修士論文を執筆できるよう指導する。

④ 特別研究の進め方

一年次は、まず、それぞれ関心のあるテーマについて先行研究をまとめ、自分の研究の位置付けを明確にすることから始める。また、同時に、研究方法（質的研究、量的研究、データ収集方法、データ分析方法など）について学び、適切な研究方法を選定し、研究計画を立てる。一年次後半には、データ収集をスタートさせる。二年次前半は、データ分析を行い、中間発表（10月中旬）を経て、論文を執筆する。

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は[本学ホームページ](https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/)>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
<https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/>



言語教育研究 コース



保坂 敏子 教授

Hosaka, Toshiko

最終学歴

1991年 国際基督教大学大学院教育学研究科博士前期課程
(教育方法学専攻視聴覚教育専修) 修了 (教育学修士)

主な職歴

慶應義塾大学、早稲田大学 (非常勤講師)、日本大学総合
科学研究所 (准教授) などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

日本語学習者や日本語教師等が、ICTやメディア、自身の文化翻訳等を媒介に、他者と協働しながら、自律的に学習を進めていく状況や、そのための学習環境デザインや学習支援に関するテーマを重視する。グローバルな視点から言語教育研究に取り組む人材の育成を目指す。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

言語教育学特講, 言語教育学特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

日本語教育学, 言語文化教育, 教育学, 視聴覚教育

② 特別研究の研究領域

日本語教育・日本語学習者支援をめぐるテーマであれば、国内・海外を問わず、特定の教育現場や学習者に特化した問題についてできるだけ幅広く対応する。また、日本語教育の方法論、国語教育や他の外国語教育との比較など教育学的な研究だけでなく、言語調査など言語学的側面も可能な限り対応する。さらに、文化を重視した言語教育、ICTを使った言語教育、自律的な言語学習をテーマとする場合、日本語以外の外国語の教育でも対応する。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

それぞれの研究課題について、自律的に資料収集や論文作成取り組みとともに、研究の計画、遂行、論文執筆の過程で、web会議や掲示板を用いて段階的にお互いにコメントをしよう協働学習を実践する。協働学習と教員の指導を基に、自身の研究内容の振り返りや論文の推敲を行って、論考を深めること。また、関連の学会や国際会議などの情報を共有するので、積極的に参加していただきたい。

④ 特別研究の進め方

一年次は、前期に研究の進め方を学ぶと同時に、自分の研究テーマについて先行研究をレビューし、自分の研究課題の位置づけを検討する。後期には、テーマを絞り込み、研究の対象と目的、方法を明確にして研究計画書をまとめ、これに沿って各自文献、アンケート、インタビュー、フィールドワークなどデータの収集を開始する。二年次は、前期にデータ収集を終了させ、分析・整理する。後期の中間発表(10月中旬)でそれを発表した後、論文の第1稿を作成し、11月中旬にゼミ内で発表する。そこでのフィードバックを基に論文を推敲し、第2稿を作成。指導教官の確認を受けて、最終稿を作成して提出する。

言語教育研究 コース



田嶋 倫雄 准教授

Tajima, Michio

最終学歴

2002年 University of Surrey, Department of linguistic,
cultural and international studies, M.A. in Linguistics (TESOL)

主な職歴

Northeastern Junior College (非常勤講師)、大東文化大
学地域連携センター (講師) などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

英語学習者に対してどのような教育方法を取ることがより効率が良いのか、学習者群を社会心理学的にとらえることのような特徴があるのか、また産官学連携に係る英語教育にはどういった事項が推奨されるのか、など知見を養う。それに伴いデータの取得、またその分析方法も取り入れ学際的な研究が進められるようになることを目指す。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

第二言語習得論特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

英語教育学

② 特別研究の研究領域

第二言語習得または英語教授法の研究である限り、可能な範囲で広範に対応する。大枠の研究テーマ例として、外国語習得の学習者観察と分析、学習者の情意面からみる外国語学習、効果的な学習方略を念頭においた外国語教授法、グローバル化を考慮した産官学連携外国語教育、国際英語としての英語教育など、英語教授法に係る範囲で課題を設定し、実際にデータ収集し精査・分析をする。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

各自が研究テーマを設定し、先行研究および資料を包括的に読解、データ収集、分析、論文執筆に取り組んでもらいたい。できるだけ多く調査・検討し、総合的・分析的・探索的・演繹的研究において自分の立ち位置を明確にし、統計手法を用いて分析し、論文にまとめていくように実施すること。また、関連する学術会議への出席や口頭研究発表を促すので、積極的に参加し、多くの学者・研究者の研究発表にも触れていくこと。

④ 特別研究の進め方

第1年次は研究テーマの絞り込み、先行研究収集と精読、研究計画を作成する。5月末までに興味のある事柄の概要を決定、6月末に主要な先行研究のリスト、8月末に文献調査結果の概観をすること。10月下旬には研究テーマを仮決定し、11月下旬に試行研究調査計画書の提出、2月中旬にその結果を提出すること。第2年次には、論文の概要決定、データ収集と分析、論文の完成へと進めていく。4月初頭に論文概要を提出し、5月初旬に研究動機・文献研究・研究方法・結果(予想)から成る簡易草稿を提出する。6月下旬までにデータ収集を完了し、分析の後7月中旬に図表提出をすること。8月末を第1回草稿提出の締め切りとし、9月下旬から10月にかけて前期課程研究(中間)発表会を行う。10月末を第2回草稿提出締め切りとし、12月下旬には修士論文提出とする。尚、教員や他の院生からのフィードバックを参考に加筆・修正を繰り返し実施し、修士論文を完成させ提出すること。

人間科学専攻

哲学, 心理学, 教育学, 医療・健康科学, スポーツ科学を軸に
幅広い学問的アプローチにより
人間存在の基本問題を総合的に解明する

本専攻は, 公共機関と私企業とを問わず様々な社会的活動領域において, 現代の先端的なニーズに対応するために, 人間存在の基本問題について十分な知見をもって活躍できる人材を養成することを目標とします。哲学, 心理学, 教育学, 医療・健康科学, 及びスポーツ科学の5つの分野を支柱に据えながら, 人間理解に不可欠な諸学問を有機的な連関において配列し, 人間存在をめぐる現代の状況を深く理解できるように配慮しています。



泉教授の個別指導

5つのコース

※この区分は履修のための一つの目安です。
各人の学問的関心や履修計画にしたがって,
科目を適宜, 組み合わせることが可能です。

教育学コース

(生涯学習論特講, 教育心理学特講等)

< 特別研究 論文題目例 >

- ・自閉症児の感覚認知障害の要因と
思われるものへの行動学的アプローチ
- ・ライフスタイルの改善のための健康教育
—運動習慣の形成について—
- ・社員教育の生涯教育における役割の一考察
- ・青年の居場所について
- ・高等学校中途退学に関する一考察
- ・図書館学教育の端緒における日米比較の試み
- ・高等学校におけるキャリア教育の方向性
—新規学卒一括採用制度を前提として—

哲学コース

(哲学史特講, 宗教哲学特講等)

< 特別研究 論文題目例 >

- ・江戸思想史における儒教の受容と変容
- ・宗教とは何か —空海と西田幾多郎—
- ・禅思想からみた矯正教育の可能性に関する一考察
- ・人間とは何か <世界平和への一考察>
- ・現代日本人の宗教意識
- ・宗教的生き方の一考察
—マキシミアノ・コルベ神父の生涯を中心として—

医療・健康科学コース

(健康科学特講, 安全学特講等)

< 特別研究 論文題目例 >

- ・早期離床を目的としたチーム連携に関する
質問紙の信頼性と妥当性の検討
- ・高位頸髄損傷者に対するスポーツレクリエーション支援
—冬山のバيسキーにおけるシーティング技術と
体調管理の検討と試み—
- ・成人期高機能広汎性発達障害 (AS/ADHD[+])
声楽家に対する新たな指導方法の検討
- ・事前画像処理を駆使した頑健性の高い胸部X線
画像診断のための畳み込みニューラルネットワーク
の構築に関する予備的検討

心理学コース

(心理学史特講, 心理学研究法特講等)

< 特別研究 論文題目例 >

- ・看護職のキャリアアップに及ぼす心理的影響要因
- ・人工音の印象に関する心理学的研究
—電子音へのセンシティブリティの検討—
- ・母親の心理学的研究
—母親の人並み志向と育児ストレスについて—
- ・トップアスリートの競技意欲に関する
心理測定の検討

スポーツ科学コース

(スポーツ運動学特講, スポーツ医学特講等)

< 特別研究 論文題目例 >

- ・運動習慣獲得後における運動継続者と中断者の比較
—運動習慣を中断しないための考察—
- ・回旋運動補助用具の開発
—柔軟性とバランス能力の向上—
- ・競泳選手の腰痛に対する後期運動療法の検討
- ・ブリッジ動作のリスク管理
—運動強度と呼気ガス分析—
- ・指示に応じた運動が実施困難な患者に対する
応用行動分析的介入
- ・閉じこもりがちで運動をしていない高齢者に対する
トークンエコノミー法導入による口腔ケア体操
継続効果

カリキュラム

人間科学特講(4単位)・特別研究(6単位)が必修科目になります。
 その他に各自の研究テーマに関連する5科目(各4単位)選択し、修得します。

各関連科目は主に下記の5コースになりますが、各院生の研究分野により自由に選択できます。

必修科目		・人間科学特講(4) ・特別研究(6)		
選択科目 5科目 20単位 を履修	哲学コース	・社会哲学特講(4)	・宗教哲学特講(4)	・生命倫理学特講(4)
		・哲学史特講(4)	・科学哲学特講(4)	・社会思想史特講(4)
	心理学コース	・心理学史特講(4)	・社会心理学特講(4)	・医療心理学特講(4)
		・心理学研究法特講(4)	・産業・組織心理学特講(4)	・行動分析学特講(4)
		・認知心理学特講(4)	・臨床心理学特講(4)	・コミュニケーション心理学特講(4)
	教育学コース	・生涯学習論特講(4)	・教育心理学特講(4)	・生徒指導論特講(4)
		・学校教育学特講(4)	・教育臨床学特講(4)	・教育評価論特講(4)
	医療・健康科学コース	・健康科学特講(4)	・人間工学特講(4)	
		・安全学特講(4)	・環境生理学特講(4)	
	スポーツ科学コース	・スポーツ運動学特講(4)	・コーチング学特講(4)	
・スポーツ医学特講(4)				
・スポーツ心理学特講(4)				
専攻共通科目		・調査分析特講(4)	・統計基礎I(2)	
		・ゲーム理論(2)	・統計基礎II(2)	

※都合により開講科目を変更する場合があります。 ※ ()は単位数です。

在学生の声



入学前の生活では味わえなかった経験が、視野を広げてくれます。

医療従事者が安全にリハビリテーションを行うために必要な知識を明らかにする研究に取り組んでいます。研究を進めるうちに興味が湧きテーマが広がりがちになりますが、先生からの的確なアドバイスをいただけるので、軌道修正しながら前進している実感があります。研究の面白さは、先生をはじめ他者からの新しい視点加わることです。先生から未知の分野の勉強会のお誘いがあったり、ゼミの先輩方のディスカッションに参加したり、他専攻の院生とグループワークを行ったりと、入学前には味わえなかった知的経験を味わうことができ、自分にとって良い刺激になっています。スクーリングやゼミ合宿など院生同士が交流する機会も意外に多く、人とのつながりが広がりました。ゼミの雰囲気もとても和やかで、総合社会情報研究科は自分が成長するために最適な環境だと感じています。

黒田 智也(医療・健康科学コース1年)

修了生の声



学びの面白さを実感し、看護師の死生観についての研究がライフワークに。

将来のために必要な学位取得。二の足を踏んでいましたが、総合社会情報研究科は在宅学修が中心なので仕事や子育てと両立しやすいこと、通信制大学院ですが対面指導があり頑張れそうだと感じたことから入学を決意しました。最初は哲学書を読むのに苦勞し、課題提出まで3か月かかりましたが、2週間に1本のペースで課題をこなせるようになりました。特別研究は「死生観」をテーマに、終末期看護における看護師の死生観や看護のあり方、看護師が「死と向き合う」ことの重要性を追究しました。「死と向き合う」ことが具体的にどのようなことなのか、今後も自分自身の研究テーマとして取り組むつもりです。スクーリングやゼミで出会った先生方や仲間のサポートに励まされ、無事2年間で修了できました。今でも仲間や先生と定期的にオンライン読書会を開催し、楽しく学び続けています。

天谷 尚子(2020年修了)

哲学
コース



岡山 敬二 准教授

Okayama, Keiji

最終学歴

2004年 中央大学大学院文学研究科博士後期課程哲学専攻修了 哲学博士

主な職歴

中央大学文学部（非常勤講師）、中央大学理工学部（非常勤講師）、日本大学法学部（准教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

現象学とよばれる哲学のなかでも、フッサルの他者論をテーマにしてきました。ここしばらくは、ハイデガーの存在論を手がかりに、人間論と存在論とを両軸のテーマに考えています。何がどこまでわかり、どこからわからないのか、それをごまかさずに自覚・整理し、理をもって伝えることを大切にしながら、研究、指導を進めていきたいと思っています。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

社会思想史特講，特別研究

特別研究

① 専門分野

現象学を中心とする現代哲学。おもに存在論，他者論や心身問題。

② 特別研究の研究領域

哲学的な考察が要求される問題をテーマとし，西洋哲学（おもに 20 世紀以後の西洋現代哲学）の古典的な文献を題材とした研究が望ましい。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

テーマを選択した動機や問題意識を整理し，その研究にとってどのような文献への参照が必要となるか検討し，基本文献を選択することが必要となる。基本文献の適切な読解を踏まえ，それについて独自に解釈，批判・検討を加えてゆくことが具体的な作業となる。こうして，先行研究との比較・検討を通じて，そのテーマについて独自の見解を論理的に説得力ある仕方でも提示できるように指導していく。

④ 特別研究の進め方

インターネットでの指導・対話を基本とするが，適宜，状況に応じて面接等の機会を設けていく。

- ・ 1 年次の夏休み前までを目途にテーマを決定し，必要な文献を検討，収集していく。
- ・ 1 年次夏休み中にテーマと文献について研究計画を作成する。
- ・ 2 年次前半を目途に研究計画の再確認を兼ねて中間報告を行う。
- ・ 進捗状況に応じ，適宜，対応を重ねていく。

哲学
コース



中澤 瞳 准教授

Nakazawa, Hitomi

最終学歴

2011年 日本大学大学院文学研究科哲学専攻博士後期課程修了 博士（文学）

主な職歴

立教大学，明星大学，成蹊大学，東京理科大学，日本大学理工学部（非常勤講師），日本大学通信教育部（准教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

現象学，主にメルロ＝ポンティの現象学的身体論をテーマに研究を行ってきた。現在，フェミニズム理論の学的見解を参照しながら，大きくいつて身体と社会，経験と社会の問題に関心をもって研究をしている。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

社会哲学特講，特別研究

特別研究

① 専門分野

現象学（主に身体論），フェミニズム理論

② 特別研究の研究領域

現象学，あるいはフェミニズム理論を出発点とした身体，経験に関する研究が望ましいが，広く現代西洋哲学に関連する問題をテーマにする場合には相談の上で対応する。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

論文には，問題，主張，そして主張を支える論拠がある。つまり論文とは，問題提起があり，提起された問題に対して主張が提示され，主張を支える論拠が明確な文章のことである。研究においては，選択したテーマをもとにまずは関連文献の調査から始める。文献調査を行う中で論文の問題設定を行い，その問題を通してどのような主張を，どのような論拠にもとづいて展開するのかについて明確にしていく。関連文献の読解，整理，批判的検討は論文執筆の上で中心的な作業になる。

④ 特別研究の進め方

- ・ 修士論文のテーマをもとに先行研究調査を行いながら，夏休み前までに論文で扱う問題を絞り込んでいく。
- ・ 引き続き先行研究調査を行い，アウトラインを年末にかけて作り込んでいく。
- ・ アウトラインをもとに執筆を行う。
- ・ 指導はメール，およびオンライン会議システムを使用する。進捗状況に応じて，適宜行う。

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/



心理学 コース



田中 堅一郎 教授

Tanaka, Ken'ichiro

最終学歴

1992年 日本大学大学院文学研究科 博士後期課程心理学専攻修了、博士(心理学)取得

主な職歴

日本学術振興会(特別研究員)、浜松大学国際経済学部(助教授)、広島県立経営学部(助教授)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

院生の皆さんには、社会心理学研究での意表を突いた発想や研究方法、そして応用領域としての産業心理学の題材の面白さを知ってもらいたい。「自分の研究テーマは、こんな形ですでに研究されていたのか」「この題材も心理学の研究なの?」「こんな研究テーマもアリなんだ」といった発見ができればきっとハマっていくことだろう。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

人間科学特講、産業・組織心理学特講、特別研究

特別研究

① 専門分野

産業・組織心理学, 社会心理学

② 特別研究の研究領域

組織や職場での不公正・不公平感の諸要因とその心理学的影響を中心とする研究テーマ。

1. 従業員が職場で行う自発的な役割外行動 2. 公平(あるいは不公平)な処遇が従業員の行動に及ぼす影響
3. 公正な人事評価を阻む心理的バイアスの種類とその対処方法(多面的観察評価法など) 4. 職場における従業員の問題行動(職場いじめ, セクシュアル・ハラスメントを含む) 5. リーダーシップについての心理学的研究

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマがどのようなものであっても、心理学の基礎知識や基本的な研究方法の習得は欠かせません。したがって、2年間はだいたい以下のような計画で研究を進めるとよいでしょう。1年次の前半では、研究テーマに必要なと思われる心理学研究法を学習してください。後半では、自分の研究テーマに関連する論文の収集を行ってください。論文の入手法も適宜教えます。論文の収集は、研究テーマに関連した数多くの文献にあたるのが望ましいでしょう。研究テーマに問題や修正が生じたときには、個人面談か随時 e-mail で相談しながら進めます。2年次の前半では、具体的な研究計画の作成と実験・調査などのデータ収集を行ってください。後半でデータの分析を行い、論文執筆に取りかかります。この際、論文の書き方については、坂口典弘・山本健太郎『心理学レポート・論文の書き方 演習課題から卒論まで』(講談社)が必読です。データ分析については、論文作成に必要な統計的手法を自分で修得しなければなりません。

④ 特別研究の進め方

基本的にはネットワークによる対話を活用しますが、面接指導も実施したいと思います。計画の詳細は以下のとおりです。

1年次(前半): 具体的な自分の研究テーマの決定。研究方法を決め、研究方法についての学習。同時に、関連文献の収集。1年次(後半): 論文作成に必要な実験・調査計画を作成。2年次(前半): 研究テーマと研究計画の再確認(計画の一部修正も可)。実験・調査などのデータ収集の開始。統計的分析方法の学習。2年次(夏期): ゼミ合宿の開催。中間発表を行う。2年次(後半): データの分析。論文執筆。草稿のチェック、最終稿作成。

担当科目

社会心理学特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

社会心理学, 教育心理学

② 特別研究の研究領域

自己と対人関係, 不安, 情動と行動などをキーワードとして, 心理学を基本とした研究領域を対象とします。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

自分が何に興味があり, 何をしたいのかを, まず明確にすることから始めます。その後, それをどのように心理学の方法で行うのか, を考えます。そしてそれを具体的に研究として進めるために, 必要な資料, 文献等の講読から, 実際にデータの収集, 整理, 分析を行い, 考察を行います。論文としてまとめるという作業も大事にしたいと思います。

④ 特別研究の進め方

1. 1年次夏休みを目安にテーマを具体的に絞り込みます。後期には研究遂行に必要な資料, 論文等の収集を行い, まとめます。
2. 研究方法についての基礎知識の獲得と, 具体的な実施方法を検討します。
3. 2年次初めに, 研究テーマと具体的な研究実施計画の確認を行い, データ収集を行います。
4. 2年次後期に, データの検討, 考察を行い, 論文執筆に取りかかり, 修士論文を仕上げます。
5. 可能な限り直接的コミュニケーションをとりたいと思いますので, 面接, 合同ゼミナール, 等の手段を計画します。積極的に参加することを望みます。

心理学 コース



和田 万紀 教授

Wada, Maki

最終学歴

1991年 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了文学博士学位取得

主な職歴

浜松大学国際経済学部(助教授), 日本大学法学部(教授)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

自分の興味や関心ある事柄を, 心理学という大きな枠組みの中で形あるものとしていく, という取り組みを行います。したがって, 心理学の方法や手続きについての基本をまず習得することを目標とします。それによって, 研究として形あるものにする楽しみを感じることができるよう指導をしたいと思います。



< 詳しいプロフィールを見る

教育学 コース



古賀 徹 教授

Koga, Toru

最終学歴

1993年 日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程単位修得満期退学

主な職歴

日本学術振興会（特別研究員）、日本大学文理学部教育学科（助手）、日本大学通信教育部（教授）

指導・研究における特色、プロフィール

フィンランド等の北欧福祉国家社会における学習観・生涯学習観について継続的な調査・研究を行っています。多角的な比較の視点、社会構成を理解する視点をもつこと。資料や文献を選び、分析する視点をもつこと。研究の視点を修得する楽しさを実感していただきたいと考えています。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

生涯学習論特講，特別研究

特別研究

① 専門分野

国際教育，学習論，教育方法論

② 特別研究の研究領域

1. 教育・学習に関する研究（例：PISA型学力と新しい学力観，など）
2. 制度・歴史的研究（例：日米における教員養成カリキュラムの比較研究，など）
3. 地域における特色のある教育実践や教育政策（例：横浜市における青少年ボランティア活動・リーダーシップ研修の目的および効果，など）

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

研究テーマの設定と，その考察により「何を明らかにしたいのか」を固めること。期間内に「どこまで明らかにできるか」「どのような方法で導き出せるのか」という方法論・評価の視点や，先行研究の探索が重要です。「優れた先行研究」を見出すこと，ヒントとなる研究を見極めるのも「研究」でつく力だと考えています。資料の読解力，論理の構成や文章表現，調査の方法に慣れるためには研究書（文献）を読むことをおすすめします。

④ 特別研究の進め方

1年次の早い時期より，研究の視点やペースについて，面談やオンラインツールをつかっての相談を開始します。研究室への来室はいつでも歓迎いたします。2年次の夏を目安に修士論文に関する中間報告の機会をつくります。

教育学 コース



柴山 英樹 教授

Shibayama, Hideki

最終学歴

2009年3月 博士（教育学）学位取得（日本大学）

主な職歴

聖徳大学児童学部（准教授）、日本大学理工学部（教授）

指導・研究における特色、プロフィール

現在の教育に関する課題を把握するためには，距離を置いて考えてみる必要があります。その一つの方法が歴史的に考察することです。もう一つは，他の事例や海外の事例などと比較するという方法です。様々な文献や資料を読みながら，私たちが問うべき課題を明確にしていきたいと思います。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

生徒指導論特講，特別研究

特別研究

① 専門分野

教育思想史，教育哲学，教育メディア論

② 特別研究の研究領域

研究領域は，教育に関する思想家・実践家に関する思想史研究，芸術教育思想や言語教育思想，教育メディア及び教材に関する理論的研究などである。

1. 教育に関する思想家・実践家に関する思想的・歴史的研究：教育思想や教育方法，人間形成論など
2. 芸術教育思想や言語教育思想に関する理論・歴史・比較研究
3. 教育メディア及び教材に関する理論的研究

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

まずは，研究テーマについて改めて深く検討し，関連する文献（図書及び雑誌論文）を収集することです。次に，収集した先行研究を批判的に検討し，自分の研究課題を明確にします。先行研究から多くのことを学び，「他分野」の研究からも学んでいきます。研究課題を設定する際に，歴史的・思想的な視点や比較研究の視点などから検討することで，研究の方法についても考えていきます。研究論文は，文献や資料などを手がかりに自分の主張の根拠を示すことが不可欠ですが，自分で問いを立て，自分で考え，自分の言葉で語るということの基本を大事にしてください。

④ 特別研究の進め方

- ・オンラインでのゼミを中心に指導を行う予定であるが，各自の状況に応じて個別指導（面談，オンライン相談，メール等）を行う。
- ・1年次は，各自の研究テーマについて検討しながら，先行研究を整理し，研究課題を検討する。
- ・2年次には，各自の論文の作成計画や実施内容を検討し，夏期にはゼミにて中間発表を行う。

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/



教育学 コース



黒田 友紀 准教授

Kuroda, Yuki

最終学歴

2007年 東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻博士課程単位取得満期退学

主な職歴

静岡大学教育学部（専任講師）、日本大学理工学部（准教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

アメリカ・カナダの学校制度や授業実践の比較研究を行いながら、日本の学校づくり・授業づくりの支援を行っています。教育の現象や問題について比較的手法や批判的な検討を行うことで、研究課題を追及していきます。また、大学院のコミュニティで仲間と学びあいながら、存分に研究を進めてもらいたいと思います。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

学校教育学特講，特別研究

特別研究

① 専門分野

教育制度論，教育方法（評価）論，比較教育学，ジェンダーと教育

② 特別研究の研究領域

1. 教育制度・政策に関する研究：学校改善の制度・政策
2. 教育方法（評価）に関する研究：国際的な学力テスト・評価，授業と子どもの学び，教師の研修
3. ジェンダーと教育：女性管理職・教師研究，学校教育とジェンダー/セクシュアリティ

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

自分の研究したいテーマや問題を設定するために、まずは、これまでに行われてきた研究（先行研究）を徹底的に収集し、検討することが重要です。その検討を通して、修士論文で「何を」「どのように」明らかにするかを明確にしましょう。限られた時間やさまざまな制約のなかで、いかに自分の主張を説得的に展開することができるかを追求してもらいたいと思います。

④ 特別研究の進め方

- ・1年次前期は、研究テーマを検討・確定するために、先行研究・関連資料等の収集と検討を行います。先行研究をできる限り収集し、検討を行います。後期も先行研究の検討を続けながら、研究テーマの確定と具体的な研究計画の作成を行います。そして、面接やネットワークを利用して相談しながら、論文執筆を進めます。
- ・2年次は、各自のペースで論文執筆を進めますが、夏を目安に中間報告の機会を設け、内容の検討と今後の計画の確認を行います。後期は、個別に相談をしながら、論文の執筆を進め、論文を完成させます。

教育学 コース



時田 学 准教授

Tokita, Gaku

最終学歴

1996年3月 日本大学大学院文学研究科博士後期課程修了

主な職歴

千葉大学教育学部（非常勤講師）、日本大学商学部（准教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

自らの気づき・興味などを起点として、それが単なる良い発想（思い付き）や感じた個人的体験ではなく、他人と共有することのできる研究課題として適切か、という観点から検討を加えていきます。また、論文執筆過程の中で、可能な限り学術的観点からの評価を受けることを目標として指導を実施致します。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

教育心理学特講，特別研究

特別研究

① 専門分野

教育心理学，ロール・プレイング・コミュニケーション，生理心理学

② 特別研究の研究領域

「人間の行動」を対象とした「心理学的」・「教育的」な研究が望ましいと考えます。ここでの「教育的」とは広範囲に対象を考え、学校教育以外の職場内教育や成人を対象にした教育、地域の中での教育（子育て）等も対象となると考えます。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

研究課題は基本的に教育心理学的課題に関連する部分と考えられますが、いずれの研究課題を選択されても、論文（科学的論文）を執筆・完成することが最終目標になります。そこで、自ら研究課題を吟味することが必要になります。そのためには、研究課題について、資料を十分に集め、その資料を基に改めて研究課題について詳細に検討することが重要です。それら資料は書籍、専門的な論文が用いられます。また研究課題の解明のためには、課題解決に適切なデータを収集・解析し、結果を解釈することができなくてはなりません。そのためには、統計的知識も必要となると考えます。そこで通信制大学院ではありますが、必要に応じてメールのやり取りだけでなく、学修場面を設定し、必要な研究指導を実施致しますので、予定の調節など調整をお願いします。

④ 特別研究の進め方

1. 1年次前期研究課題の設定に必要な展望的研究，先行研究・関連資料等の資料収集，研究方法の検討。
2. 1年次夏季面接・ゼミナール合宿等で，研究課題についての具体的実施計画の発表と検討。
3. 1年次後期調査・実験などの計画と予備調査実施，資料収集継続。
4. 2年次前期研究計画の最終調整と調査・実験などのデータ収集。
5. 2年次夏季データ分析とゼミナール合宿での中間発表・可能であれば論文執筆。62年次後期分析結果についての検討と論文執筆，原稿チェック，論文提出。

スポーツ科学
コース



上野 広治 教授

Ueno, Koji

最終学歴

2013年 筑波大学人間総合科学研究科修士課程スポーツ健康システム・マネジメント修了, 修士(体育学)取得

主な職歴

日本大学豊山中・高等学校教諭, 日本大学スポーツ科学部教授などを経て現職

指導・研究における特色, プロフィール

これまでに競泳日本代表監督として, コーチングやチームマネジメントを行い, 多くの国際大会においてメダルを獲得。現在は日本水泳連盟副会長として強化統括を行うと共に, 日本オリンピック委員会本部役員として国際大会に帯同し, 日本の国際競技力向上に努めている。これらの経験を活かし, スポーツ科学部ではコーチング演習等の授業を担当している。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

コーチング学特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

コーチング学

② 特別研究の研究領域

コーチング学とは「体育・スポーツの指導実践に関する研究」を行う学問分野であり, 個別科学の研究成果を評価し統合して, 実践指導に活かす役割が求められます。このことから, 先行研究を精査した上で体力面, 技術面, 心理面等, 実践指導に関わる問題を提起します。その問題を解決するための研究方法をスポーツ科学における個別科学領域から選択し, 得られた研究成果を実践指導に適用する方法について, さらに検討を進めるのがコーチング学の研究領域になります。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

コーチング学における研究は「研究成果を実践指導に適用」するところまで, 継続的に検討することであり, 例えば研究成果をアスリートやコーチに解り易くフィードバックするまで研究を継続することが求められます。すなわち, 先行研究を精査した上で問題を提起し, 個別科学領域における研究方法やデータ処理方法を学修すること, さらに研究成果を実践指導に活かす学修が課題となります。

④ 特別研究の進め方

基本的にはレポート形式, 面接指導, プレゼンテーション等により, 研究を進めます。また可能な範囲で夏季, 冬季, 春季休暇期間を利用し, 個別科学領域における研究方法の演習も実施し, データを正確に測定できる能力を養っていきます。1年次前半は先行研究の収集と研究テーマの決定, 研究方法の検討を行います。夏季は研究方法の演習, 基本的な統計処理方法の学修, 研究計画の発表を実施します。1年次後半から2年次前半で実験, 測定, 調査等, 研究の実施, およびデータ分析を行い, 結果に対する考察を対面もしくはオンラインによる指導(ディスカッション)を行いながら検討し, 夏季の中間発表を経て, 2年次後半の論文を執筆(修士論文提出)することを想定しています。

スポーツ科学
コース



森長 正樹 教授

Morinaga, Masaki

最終学歴

2003年3月 日本大学大学院文学研究科博士前期課程教育学専攻 修了

主な職歴

株式会社ゴールドウィン, 日本大学理工学部, 日本大学スポーツ科学部(教授)などを経て現職

指導・研究における特色, プロフィール

陸上競技走り幅跳びの元日本記録保持者であり, 1996年バルセロナオリンピック, 2000年シドニーオリンピック日本代表。2017年から現在に至るまで日本陸上競技連盟強化委員会(男子走り幅跳び), 2018年から現在に至るまで関東学生陸上競技連盟強化副委員長を歴任しており, 指導者としても活躍。これらの経験を生かして, 運動の質的な研究および運動の発達や修正に関する主観的な研究を行っております。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

スポーツ運動学特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

スポーツ運動学

② 特別研究の研究領域

人間の運動の中でもスポーツにおける運動を研究対象とし, 実際に行っている運動について直接観察を通してとらえられる運動の特性や構造を明らかにすることに力点を置きます。

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

研究課題を設定する上で, どのような運動を対象にし, どのような現象について研究するのかについて自身で精査しておく必要があります。また, スポーツ運動学研究では様々な方法論が存在することから, その方法論に関する知識を事前に修得しておく必要もあると思います。さらに, その方法論にインタビュー調査やアンケート調査が選択される場合には倫理審査が必要になる場合もあるので周知な準備が必要です。

④ 特別研究の進め方

スポーツ運動学研究の中核的課題領域は, 運動質, 運動体系, 運動発達, 運動学修に関する理解, およびその理解をいかにして理論化することができるかが課題となります。さらには運動の自然性や美しさ, 流動性といった領域も研究課題になり得ます。上記のことを念頭に置き, 基本的には研究室などで対話による対面形式やZoomなどのアプリを使ったオンライン形式を利用して研究を進めていきます。しかし多くの場合は実際に起こっている運動を研究対象とするため, その現場での研究に関する打ち合わせや面談指導等も行います。

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/



スポーツ科学 コース



橋口 泰一 准教授

Hashiguchi, Yasukazu

最終学歴

2004年 日本大学大学院文学研究科教育学専攻 修士課程修了(教育学)

主な職歴

日本大学文学部(助教), 日本大学松戸歯学部(准教授)などを経て現職

指導・研究における特色, プロフィール

どのような研究テーマにするか, 私からのアプローチからではなく, 自分の興味・関心, 探求したい事柄を大切に, テーマを見つけていきましょう。面談やネットワークを使ってお話を1年次から開始します。夏期・冬期・春期休暇を利用して, 面接指導を適時実施します。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

スポーツ心理学特講, 特別研究

特別研究

① 専門分野

スポーツ心理学

② 特別研究の研究領域

スポーツ競技者のスポーツパフォーマンス向上のための研究
コーチの成長, コーチングスキル向上に向けた研究
パラスポーツ(障がい者スポーツ)の心理的強競技能力向上に関する研究

③ 特別研究の指導及び研究上のポイント

競技力向上に向けて, また健康になるため, 様々な研究におけるアプローチがあります。その中の一つとして, スポーツ心理学を軸に研究を進めていきます。どのような研究テーマにするか, 私からのアプローチからではなく, 自分の興味・関心, 探求したい事柄を大切に, テーマを見つけていきましょう。したがって, スポーツ心理学への興味はもちろんのこと, 基礎知識や研究方法が必須となります。

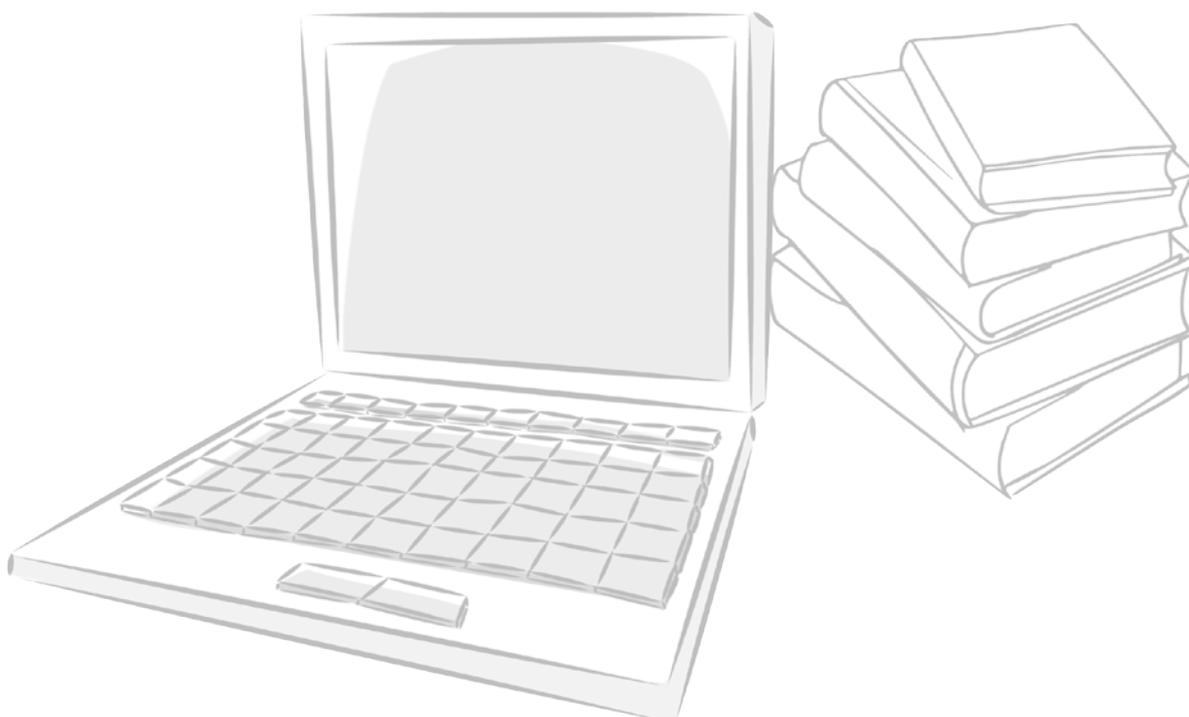
④ 特別研究の進め方

特別研究は, 文献の探し方, データ分析の行い方, 論文の書き方を中心に指導します。研究指導の前半は, 心理学の研究法について習得し, テーマに関する論文の収集を行い先行研究をまとめましょう。後半は, 実験・調査等のデータ収集及び分析を行い論文を完成させます。

受講生の学修環境に応じて, 面談やネットワークを使ってお話を1年次から開始します。夏期・冬期・春期休暇を利用して, 面接指導を適時実施します。

1年次: 研究テーマの決定, 研究計画作成, 研究方法の習得, 関連文献収集, 先行研究まとめ

2年次: 研究計画再検討, 実験・調査研究の実施。ゼミ合宿(予定), 中間発表, データ分析, 論文執筆(論文指導), 修士論文提出



入学から卒業まで



入学式・開講式

日本武道館で入学式を行い、その後、通信教育部の講堂で開講式を行います。



スクーリング

3日間の短期集中スクーリング(東京・市ヶ谷)
在学中に必要なスクーリングはこの3日間のみです。



在宅学修

在宅学修は基本となる学修形態です。科目ごとに、「基本教材」が指定されます。これらをよく読み、課題を研究し、レポートにまとめていきます。指導は、電子メールやインターネットが基本ですが、対面の個別指導も実施しています。



市ヶ谷キャンパス

日本大学通信教育部3号館。JR・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩4分の好立地。専任教員の研究室も、この建物内にあります。



特別研究 (修士論文指導)

特別研究は小グループ単位で進めています。ゼミは“面接ゼミ”と、自宅からインターネットを利用して、相手の顔を見ながら音声でコミュニケーションをおこなう“サイバーゼミ”があります。



面接ゼミ

直接対面して行うゼミ。各学生の研究の進捗状況を報告し、方法論などについて議論します。



個別指導

必要に応じて、対面による個別指導も行います。



公開講座

年数回、生涯学習を目的として、一般の方を対象に実施しています。もちろん、学生も参加できます。



オープン大学院

ゼミの紹介、修了生・在学生による研究発表会です。公開講座や入学説明会も実施します。(2022年はネットで開催)



卒業(修了)式・学位伝達式

入学式同様、日本武道館で卒業(修了)式を行い、その後、市ヶ谷キャンパスで学位記伝達式を執り行います。

博士後期課程

総合社会情報専攻

(3年制)

3つの分野

分野	内容
国際情報分野	この分野では、企業経営・国際政治において必要とされる知識・学問を身に付けることができるように科目が配置されています。これまで取り扱われてきたテーマは社会全般を対象とした包括的なものが多く、グローバル化・情報化が進展する社会環境における諸問題に対処するように、学際的に多方面からのアプローチが意識して研究に取り組まれています。具体的な研究内容には、社会問題研究(企業経営・産業振興)、国際地域研究(政治・外交・国際関係)などがあります。
文化情報分野	本分野では、社会と文化に関わる情報を的確に読み解き、好ましいグローバル・コミュニティの形成とグローバル市民の育成に寄与できる研究者、教育者、専門家を養成します。研究領域は、比較文学、翻訳論、言語教育学(日本語教育他)、第二言語習得論、文化人類学(東アジア)等であるが、いずれの領域であっても、学際的、超域的研究が推奨されます。学生と教員は多元的社会と多種多様な文化の理解を深め、文化の翻訳者として、また文化情報の受信・発信者としての能力を高めるべく、協働して研究に取り組みます。
人間科学分野	本分野では、人間存在の根本問題への理解と認識を推進することを教育研究の主眼としています。人間存在そのものが置かれている現代的な問題状況に関する学問的探究を学際的な立場から深化・発展させるように研究領域を大別し、人間存在と人間本性の根本的把握という課題に照準して科目配置を行っています。研究内容には、心理学、医療・健康、教育及び哲学・宗教があります。

国際情報分野



加藤 孝治 教授

Kato, Koji

最終学歴

1988年 京都大学経済学部, 2012年 日本大学大学院総合社会情報研究科総合社会情報専攻博士後期課程修了博士(総合社会文化)

主な職歴

日本興業銀行(現みずほ銀行), 三井物産(出向), 目白大学(教授)などを経て現職

指導・研究における特色, プロフィール

銀行在籍中に小売業界, 食品業界に対する産業調査及び営業業務に従事した経験に基づき, 小売・食品・物流産業を中心に経営戦略・経営組織研究のほか, ファミリービジネスに着目し, 具体的な企業事例に基づく論文指導を中心に行います。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

流通経営論特殊研究, 特別研究指導

学術論文

2020年「日本酒の輸出拡大に係る一考察～フランスワインのグローバルゼーションとの比較考察～」日仏経営学会誌, 2018年「小売チェーンによる物流コスト削減の取り組みに係る一考察～トライアル社に見る調達物流改善の実態～」日本物流学会学会誌 No.26, 2018年「総合社社に期待される機能変化に関する考察—食品分野における事業展開の変化—」目白大学経営学研究, 第15号, 2018年「Japanese corporate governance structure review and 'the logic of lé」(共著) International Journal of Business and Globalisation, Vol.20 No.3, pp354-370, 2016年「地域に根付いた経営資源の活用による地方創生モデルに関する考察—再春製菓と霧島酒造が手掛ける地域活性化事例—」共著, 日本物流学会学会誌 No.24, 87-94頁, 2013年『タイの洪水後に生じた自動車業界のサプライチェーンの変化について』共著, 日本物流学会学会誌 No.21, 127～134頁, 2006年『小売業の国際調達ロジスティクス戦略』共著, 日本物流学会学会誌 No.14, 173～180ページ(日本物流学会 学会賞 受賞), 2006年『小売業のグローバル化と国際調達ネットワークの方向性』共著, 日本貿易学会年報 JAFT43号 76～86ページ(日本貿易学会 学会賞 受賞)

著書

2020年『ファミリーガバナンス ～スムーズな事業承継を実現するために』中央経済社, 2019年『これからの銀行論』中央経済社, 2016年『日本のファミリービジネス』中央経済社(共著), 2015年『Next Marketを見据えた食品企業のグローバル戦略』ぎょうせい(共著), 2015年『ようこそ小売業の世界に—先人に学ぶ商いのこころ—』商業界(共著), 2012年『食品企業飛躍の鍵—グローバル化への挑戦—』ぎょうせい(共著), 2010年『食品企業のグローバル戦略—成長するアジアを拓く—』ぎょうせい(共著)

担当科目

日中比較社会論特殊研究, 特別研究指導

学術論文

2021年「『満蒙』誌上における伊藤順三：在満日本人による「満洲」認識形成過程に関する事例研究として」(単著), 2007年「大阪経済法科大学所蔵『間島問題資料』の射程：外務省外交史料館所蔵史料との関連を中心に」(単著), 2002年「国立国会図書館所蔵明治期(1907年11月3日～1912年7月31日)『満洲日日新聞』モンゴル関係記事名目録・解題」(単著), 1999年「辛亥革命と吉林省政局」公益財団法人東洋文庫(単著), 1997年「国民革命期における東北在地有力者層のナショナリズム：奉天総商会の動向を中心に」(単著), 1991年「張作霖による奉天省権力の掌握とその支持基盤」(単著), 1990年「『保境安民』期における張作霖地域権力の地域統合策」(単著)

著書

2021年『久保亨・瀧下彩子編『戦前日本の華中・華南調査』』公益財団法人東洋文庫(分担執筆), 2020年『吉田謙吉が撮った戦前の東アジア：1934年満洲/1939年南支・朝鮮南部』草思社(監修), 2017年『田中仁編『21世紀の東アジアと歴史問題—思索と対話のための政治史論』』法律文化社(分担執筆), 2016-7年『近代中国都市案内集成：大連編(全18巻)』ゆまに書房(共監修), 2015年『挑戦する満洲研究—地域・民族時間—』東方書店(共編), 2014年『本庄比佐子・内山雅生・久保亨編『華北の発見』』汲古書院(分担執筆), 2013年『蒋介石研究：政治・戦争・日本』東方書店(共編), 2012年『20世紀満洲歴史事典』吉川弘文館(共編), 2009年『安富歩・深尾葉子編『「満洲」の成立：森林の消尽と近代空間の形成』』名古屋大学出版会(分担執筆), 2006年『末廣昭編『「帝国」日本の学知(第6巻)：地域研究としてのアジア』』岩波書店(分担執筆), 2006年『本庄比佐子編『日本の青島占領と山東の社会経済：1914-22年』』公益財団法人東洋文庫(分担執筆), 2001年『曾田三郎編著『近代中国と日本：提携と敵対の半世紀』』御茶の水書房(分担執筆)

国際情報分野



松重 充浩 教授

Matsushige, Mitsuhiro

最終学歴

1991年 広島大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程後期単位取得退学

主な職歴

日本大学文学部史学科(教授)などを経て現職

指導・研究における特色, プロフィール

歴史研究分野の博士論文作成には, 個々の実証成果の羅列ではなく, それらを自らが設定したテーマに則して統一的に整理した上で, その歴史的意義と残された課題を明示していくことが必要となります。授業では, この能力の涵養に向けて, 個別事実間の構造的連関性把握と歴史的意義発見方法についての指導を行います。



＜ 詳しいプロフィールを見る

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/



国際情報分野



陸 亦群 教授

Riku, Yugun

最終学歴

2001年3月 日本大学大学院経済学研究科博士後期課程修了 博士(経済学) 取得

主な職歴

日本大学通信教育部(教授) 日本大学経済学部(教授)を経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

現在の研究は、企業生産活動のグローバル化と地域経済との関連性を念頭に置きつつ、もの作りアーキテクチャのモジュラー化と細分化分業との関わりに焦点を当てている。新しい国際分業関係、すなわち生産工程における細分化分業関係を前提にして、日本には新興諸国との協業関係を意識した新たな成長戦略が求められ、グローバルな視点から地方創生について探究したい。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

国際経済政策論特殊研究, 特別研究指導

学術論文

「国際分業における製品アーキテクチャおよび企業戦略に関する一考察」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第29号 2016年3月, 「グローバル化時代の企業戦略展開と政府の役割」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第28号 2015年3月, 「新興国の都市化とダイナミックキャッチアップ」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第27号 2014年3月, 「グローバル・マーケティング戦略と新興国のキャッチアップ」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第26号 2013年3月, 「キャッチアップにおける政府の役割と東アジア新興諸国の経験」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第25号 2012年3月, 「東アジア新興国の経験の中央アジア経済発展への適用に関する一考察」『日本貿易学会年報』日本貿易学会 第48号(共著) 2011年3月

著書

Tsuji, Tadahiro, Yiliang Wu and Yugun Riku (ed.) (2015), Rebirth of the Silk Road and a New Era for Eurasia, Yachiyo Shuppan.

『産業集積と新しい国際分業—グローバル化が進む中国経済の新たな分析視点—』

文真堂(共著) 2007年3月

国際情報分野



瀧川 修吾 准教授

Takigawa, Shugo

最終学歴

2009年 日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程修了 博士(政治学)

主な職歴

日本橋学館大学リベラルアーツ学部(専任講師, 准教授), 日本大学危機管理学部(准教授)などを経て現職。

指導・研究における特色、プロフィール

本研究科での指導・研究は、今年で4年目を迎えました。通信制ですので、基本はオンラインやメールを活用した文書のやり取りや添削指導が中心となりますが、希望者には危機管理学部のゼミ生との交流やビデオ会議による指導の機会なども設けます。やはり研究成果は、様々な人の前で公表した方が楽しいものです。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

日本政治史論特殊研究, 特別研究指導

学術論文

2003年「山田方谷と征韓論」(日本大学大学院『法学研究年報』第32号), 2004年「征韓論と勝海舟」(日本大学大学院『法学研究年報』第33号), 2005年「ロシアによる対馬占拠事件の考察」(日本大学大学院『法学研究年報』第34号), 2006年「対馬藩の征韓論に関する比較考察—文久三年・元治元年・慶応四年の建白書を中心に—」(日本大学大学院『法学研究年報』第35号), 2006年「幕末の排外・優越主義的思考様式についての一考察」(日本法政学会『法政論叢』第42巻第2号), 2008年「征韓論の論理的構造とその起原に関する研究」(学位申請論文), 2009年「橋本左内の対外観とアジア雄飛論—日露同盟論を中心に—」(日本大学『政経研究』第46巻第2号), 2010年「2009年学界展望/政治思想(日本・アジア)」(日本政治学会『年報政治学 2010-II』), 2012年「『江湖(ごうこ)新聞』と福地櫻痴」(日本橋学館大学『紀要』第11号), 2013年「2012年書評/政治史(日本・アジア)」(日本政治学会『年報政治学 2013-I』), 2015年「2014年学界展望/政治史(日本)」(日本政治学会『年報政治学 2015-II』), 2016年「学術出版にまつわる諸作業の電子化に潜む陥穽—研究教育者の視点から—」(開智国際大学『紀要』第15号), 2021年「コロナ禍の「政治学」—オンデマンド型講義の実践例と考察—」(『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.21), 「日本の外国人受入れ政策に関する一考察—「令和二年二月入管法改正法案」挫折の背景」(日本大学法学部『日本法学』第87巻第2号)ほか

著書

2005年『政治と行政の理論と実際』思文閣出版(共著), 2006年『近代日本政治史II 大正・昭和』南窓社(共著), 2007年『増訂新版 近代日本政治史I 幕末・明治』南窓社(共著), 2007年『臨床に必要な法学』弘文堂(共著), 2008年『小泉劇場千秋楽—発言力4—』三和書籍(共著), 2013年『リーガル・マキシマム—現代に生きる法の名言・格言—』三修社(共著), 2014年『征韓論の登場』櫻門書房, 2015年『法学入門』光生館(共著), 2018年『外国人の受入れと日本社会』日本加除出版(共著), 2021年『新・社会福祉士シリーズ 18 権利擁護を支える法制度』弘文堂(共著)ほか

文化情報分野



島田 めぐみ 教授

Shimada, Megumi

最終学歴

2006年9月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理学社会行動科学講座博士課程修了 博士(心理学)

主な職歴

日本貿易振興会国際交流部(ビジネス日本語担当アドバイザー)、東京学芸大学留学生センター(教授)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

学習者主体の教育へのシフト、学習者の多様化、社会のグローバル化などにより、日本語教育のあり方も変容しつつある。その中で、広い視野に立ち、研究を行う能力を重視する。また、先行研究における研究の位置付けを明確にし、正しい研究方法を選択できるよう指導する。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

言語教育方法論特殊研究, 特別研究指導

学術論文

1998年「外国人ビジネス関係者の日本語使用—実態と企業からの要望—」(共著)『世界の日本語教育』8号, 1999年「アジア5都市の日系企業におけるビジネス日本語のニーズ」(共著)『日本語教育』103号, 2002年「日本語ビジネス文書の評価—会社員と日本語教師への調査から—」(単著)『多摩留学生センター教育研究論集』3, 2003年「日本語聴解テストにおける選択肢提示形式の影響」(単著)『日本語教育』119号, 2006年「日本語聴解テストにおいて難易度に影響を与える要因」(単著)『日本語教育』129号, 2006年「日本語 Can-do-statements を利用した言語行動記述の試み—日本語能力試験受験者を対象として—」(共著)『世界の日本語教育』16号, 2009年「中国語母語話者を対象とした日本語聴解テストにおける選択肢提示形式の影響」(共著)『世界の日本語教育』19号, 2009年「Can-do statements を利用した教育機関相互の日本語科目の対応づけ」(共著)『日本語教育』141号, 2013年「教育機関における Can-do statements 自己評価の応用」(単著)『言語教育評価研究』第3号, 2015年「日本語学習支援のための認知診断テストの開発」(共著)『第二言語としての日本語の習得研究』第18号, 2016年「日本語文法認知診断テストの開発に関わる内容分析」(共著)『東アジア日本語教育・日本文化研究』第19号, 2017年「ハワイの共通語となった日本語彙」(共著)『東アジア日本語教育・日本文化研究』第20号, 2018年「ハワイにおける借用語 habut-の使用実態について—ハッシュタグ検索を用いて—」(単著)『学芸国語国文学』第50号, 2018年「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に—」(共著)『琉球大学国際教育センター紀要』2号, 2020年「日本語教育における Can-do statements 研究の現状と課題」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』21号, 2020年「日本語聴解認知診断テストの開発を目指したアトリビュートとテストの分析」(共著)『日本語テスト学会誌』23, 2020年「ハワイにおける借用語「kakuma」」(共著)『国語語彙史の研究』39, 2021年「CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)の日本語教育への適用可能性に関する基礎研究」(共著)『日本語テスト学会誌』17他

著書

2008年『日本語教師のための Excel でできるテスト分析入門』スリーエーネットワーク(共著), 2013年「ハワイ日系人の日本語」『オセアニアの言語的世界』淡水社(分担執筆), 2015年「第9章 日本語彙認知診断テスト」『日本語教育のための言語テストガイドブック』くろしお出版(分担執筆), 2017年『日本語教育のためのはじめての統計分析』ひつじ書房(共著), 2021年『統計で転ばぬ先の杖』ひつじ書房(共著), 他

担当科目

アジア文化特殊研究, 特別研究指導

学術論文

「涼山彝族の葬・墓制—土語地域間の差異についての一考察—」『西南中国納西族・彝族の民俗文化—民俗宗教の比較研究—』(p368-387) 佐野賢治編, 1999年2月 勉誠出版(単著), 「從墓碑資料来看凉山彝族土司阿都氏初探」『彝族古文獻與傳統醫藥開發國際學術研討會論文集』(p559-577), 彝族古文獻與傳統醫藥開發國際學術研討會組委編 2002年7月 雲南民族出版社(単著), 「碑文が語る生態史—地域住民からみた生態環境の変化」『モンスーンアジアの生態史 第2巻 地域の生態史』(p35-53) 秋道智弥編 2008年4月 弘文堂(共著), 「関與雲南省南部生態環境碑刻」『明清以来雲貴高原的環境與社会』(154-182p) 楊偉兵編 2010年6月 上海東方出版中心(単著), 「近代から現代における彝族社会の変化と文化変容についての総合研究—凉山彝族を中心として—」2014年3月 日本大学博士學位論文, 「町に出るピモ—一県におけるピモ(彝族祭司)の活動—」『中国の社会変化と再構築 グローカライゼーションの視点から』韓敏編 2015年3月 風響社(単著), 他

著書

『講座ファーストピーブルズ—世界先住民の現在— 第一巻 東アジア』綾部恒雄監修末成道男・曾士才編 2005年1月 明石書店(共著), 『図録メコンの世界—歴史と生態—』秋道智弥編 2007年3月 弘文堂(共著), 『中国雲南少数民族生態環境碑文集』唐立編 2008年4月 総合地球環境学研究所(共著), An Illustrated Eco-History of the Mekong Basin, Akimitsu, Tomoya(ed.), White Lotus, Jul., 2008(共著), 『雲南西部少数民族古文書碑文集』唐立編 2011年3月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(共著), 『台湾中央研究院傅斯年圖書館藏彝文(羅羅文)文書解題』清水享編 2012年3月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(共著), 他

文化情報分野



清水 享 教授

Shimizu, Toru

最終学歴

2014年3月 日本大学大学院文学研究科 博士(文学)学位取得

主な職歴

日本大学, 明治大学, 法政大学, 東京学芸大学, 東京農業大学, 実践女子大学(兼任, 非常勤講師), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(共同研究員), 国立民族博物館(共同研究員)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

東アジアにおける民族の文化, 社会, 歴史の研究を歴史学と文化人類学から進めます。東アジアの多様な文化, 社会, 歴史を多角的に把握することを目指します。また文化, 社会の背景にある経済史や生態環境史の視点から立体的な研究を進めます。



＜ 詳しいプロフィールを見る

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/



文化情報分野



秋草 俊一郎 准教授

Akikusa, Shun'ichiro

最終学歴

2009年 東京大学大学院人文社会系研究科修士(文学)

主な職歴

日本学術振興会(特別研究員), ハーバード大学(客員研究員), 東京大学教養学部(専任講師)などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

20世紀以降の日本およびロシア・欧米の言語文化研究をひろくおこなう。その際、世界文学や翻訳理論における近年の議論を紹介する。フランコ・モレッティやデイヴィッド・ダムロッシュの世界文学への近年の取り組みをときに講師自身の翻訳で紹介しながら、背景となった現代の文化状況について理解をうながしたい。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

比較文学特殊研究, 翻訳論特殊研究, 特別研究指導

学術論文

2012年「日本文学のなかのナボコフ——誤解と誤訳の伝統」『文学』第13巻第4号, 2012年「自己翻訳者の不可視性——その多様な問題」『通訳翻訳研究』12号, 2013年「レキシントンの幽霊」『早稲田文学』6号, 2014年「カノンをはかる——『世界文学全集』に見る各国別文学の受容の移り変わり」『世界文学』120号, 2015年「カノンを輸入する——『ハーヴァード・クラシックス』と円本全集」『比較文学』57号 ほか

著書

2020年『「世界文学」はつくられる——1827 - 2020』(東京大学出版会), 2011年『ナボコフ 訳すのは「私」——自己翻訳がひらくテキスト』(東京大学出版会), 2018年『アメリカのナボコフ——塗りかえられた自画像』(慶應義塾大学出版会)

訳書

- ・フランコ・モレッティ『遠読——<世界文学システム>への挑戦』(みずす書房, 共訳)
- ・エミリー・アプター『翻訳地帯——新しい人文学の批評パラダイムにむけて』(慶應義塾大学出版会, 共訳)
- ・マシュー・レイノルズ『翻訳——訳すことのストラテジー』(白水社)
- ・ウラジーミル・ナボコフ『ナボコフの塊——エッセイ集 1921 - 1975』(作品社, 編訳)
- ・ドミトリー・パーキン『出身国』(群像社) ほか

人間科学分野



柴山 英樹 教授

Shibayama, Hideki

最終学歴

2009年3月 博士（教育学）学位取得（日本大学）

主な職歴

聖徳大学児童学部（准教授）、日本大学理工学部（教授）

指導・研究における特色、プロフィール

現在の教育に関する課題を把握するためには、距離を置いて考えてみる必要があります。その一つの方法が歴史的に考察することです。もう一つは、他の事例や海外の事例などと比較するという方法です。様々な文献や資料を読みながら、私たちが問うべき課題を明確にしてみましょう。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

教育思想史特殊研究, 教育認識論特殊研究, 特別研究指導

学術論文

2005年（単著）「ルドルフ・シュタイナーにおける『身体』・『リズム』・『教育』の関係をめぐる一エミール・ジャック＝ダルクロワズとの比較考察を通じて」『教育哲学会『教育哲学研究』第91号, 2005年（単著）「シュタイナーの色彩論に関する思想的考察」『教育思想史学会『近代教育フォーラム』第14号, 2008年（単著）「シュタイナーの人間観に関する考察—19世紀自然科学との対峙という視点から」『臨床教育人間学』第3号「生きること」, 2014年（単著）「中学校の道徳教育における教材研究と指導方法に関する一考察—小学校読み物資料を中学校で読み直すための試案—」『日本大学教育学会『教育学雑誌』第50号, 2016年（単著）「シュタイナーの系統発生史と『教育』の関係—「個体」と「想像力」のあり方に着目して」『教育思想史学会『近代教育フォーラム』第25号, 2020年（単著）「英米ヴァルドルフ教育における言語教育の側面—バーフィールドの言語思想に着目して—」『日本大学理工学部一般教育教室『一般教育教室彙報』第108号

著書

2009年（共著）『教育人間学の展開』北樹出版, 2009年（共著）『現代学校教育論』日本文化科学社, 2011年（単著）『シュタイナーの教育思想—その人間観と芸術論—』勤草書房, 2012年（共著）『博物館教育論—新しい博物館教育を描きだす—』ぎょうせい, 2013年（共著）『言語と教育をめぐる思想史』勤草書房, 2016年（共著）『現代教職論』弘文堂, 2016年（共著）『道徳教育の理論と方法』弘文堂, 2017年（共著）『哲学する道徳—現実社会を捉え直す授業づくりの新提案』東海大学出版部, 2018年（共著）『<新訂>教職入門—未来の教師に向けて』明文書林, 2019年（共編著）『言葉とアートをつなぐ教育思想』晃洋書房

人間科学分野



田中 堅一郎 教授

Tanaka, Ken'ichiro

最終学歴

1992年 日本大学大学院文学研究科 博士後期課程心理学専攻修了, 博士（心理学）取得

主な職歴

日本学術振興会（特別研究員）、浜松大学国際経済学部（助教授）、広島県立経営学部（助教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

院生の皆さんには、社会心理学研究での意表を突いた発想や研究方法、そして応用領域としての産業心理学の題材の面白さを知ってもらいたい。「自分の研究テーマは、こんな形ですでに研究されていたのか」「この題材も心理学の研究なの?」「こんな研究テーマもアリなんだ」といった発見ができればきっとハマっていくことだろう。



＜ 詳しいプロフィールを見る

担当科目

産業・組織心理学特殊研究, 特別研究指導

学術論文

1999年 “Judgment of fairness by just world believers.”『Journal of Social Psychology Vol.139, No.5, 2000年「日本語版セクシュアル・ハラスメント可能性尺度についての検討—セクシュアル・ハラスメントに関する心理学的研究—」『社会心理学研究』16巻1号, 2002年「日本版組織市民行動尺度の研究」『産業・組織心理学研究』15巻2号, 2005年「日本版組織機能阻害行動の測定尺度の開発」『経営行動科学』18巻1号, 2007年「職場の迫害が従業員の職務行動および心理的・身体的側面に及ぼす影響」『産業・組織心理学研究』21巻2号, 2012年「ジェンダー・ハラスメント測定尺度の等価性の検討—共分散構造分析による平均構造・多母集団同時分析を用いた検討—」『応用心理学研究』38巻2号, 2013年 “Organizational citizenship behavior in contemporary workplaces in Japan.”『Japan Labor Review, Vol.10, No.3, 2016年 “Impact of gender harassment on job-related behaviors in the Japanese workplace.”『経営行動科学』28巻3号

著書

1996年『報酬分配における公正さ—社会心理学的考察—』風間書房（単著）、1998年『社会的公正の心理学』心理学の視点から見た「フェア」と「アンフェア」ナカニシヤ出版（編著）、2004年『従業員が自発的に働く職場をめざすために』ナカニシヤ出版（単著）、2007年『臨床組織心理学入門 組織と臨床への架け橋』ナカニシヤ出版（編著）、2008年『荒廃する職場 / 反逆する従業員 職場における従業員の反社会的行動についての心理学的研究』ナカニシヤ出版、2019年『産業・組織心理学エッセンシャルズ 第4版』ナカニシヤ出版（編著）

教員情報は2022年7月のものです。諸事情により、変更が生じる場合があります。
最新の教員情報は本学ホームページ>教員情報をご参照ください。

総合社会情報研究科ホームページ
https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/



人間科学分野



岡山 敬二 准教授

Okayama, Keiji

最終学歴

2004年 中央大学大学院文学研究科博士後期課程哲学専攻修了 哲学博士

主な職歴

中央大学文学部（非常勤講師）、中央大学理工学部（非常勤講師）、日本大学法学部（准教授）などを経て現職

指導・研究における特色、プロフィール

現象学とよばれる哲学のなかでも、フッサールの他者論をテーマにしてきました。ここしばらくは、ハイデガーの存在論を手がかりに、人間論と存在論とを両軸のテーマに考えています。何がどこまでわかり、どこからわからないのか、それをごまかさずに自覚・整理し、理をもって伝えることを大切にしながら、研究、指導を進めていきたいと思っています。



< 詳しいプロフィールを見る

担当科目

近現代哲学特殊研究、特別研究指導

学術論文

2019年「人間への問いと思索の祝祭——ハイデガー『芸術作品の根源』の根源をさぐって——」『桜門論叢』第99巻、日本大学法学部（単著）、2018年「『もつとも不気味なもの』としての人間に向けて——存在と無のはざままで——」『桜門論叢』第97巻、日本大学法学部（単著）、2018年「技術と存在——ハイデガー「技術への問い」を問う——」『桜門論叢』第96巻、日本大学法学部（単著）、2014年「肉から他者へ——メルロ＝ポンティからフッサールへ」『桜門論叢』第87巻、日本大学法学部（単著）、2013年「心身問題を蒸し返す」『人文研紀要』第77巻、中央大学人文科学研究科（単著）、2013年「内在と原初の哲学——他者不在の背理について（フッサールのばあい）——」『桜門論叢』第85巻、日本大学法学部（単著）、ほか

著書

2014年『人間が人間でなくなる時——フッサールの影を追え、とメルロ＝ポンティは言った』亜紀書房（単著）、2008年『フッサール——傍観者の十字路』白水社（単著）、ほか

博士前期課程 国際情報専攻の学修アドバイス 加藤 孝治 教授

大きく社会環境が変化する時代です。人生 100 年時代を生き抜くためにも情報を選択し理解する力を身に付ける必要があります。

現在、社会環境は大きく変化しています。技術革新により企業の活動方法や働き方は大きく変わっています。また、国際情勢も日々刻々と変わっています。1年後にどのような社会になっているのでしょうか。さらに2020年に発生したコロナ禍によって、私たちの社会生活は見直されていきます。こうした環境の中で、私たちはインターネットを通じて多くの情報に接しています。情報過多社会で、一番大事なことは、情報を評価し理解する力を身に付けることです。周りの意見に流されず、自分の意見を持って行動しなくてはなりません。人生 100 年時代の中で、多くの人はいくつもの変化に直面します。いつ起こるかわからない大きな変化に直面したとき、正しい選択をするには幅広い見地からの知識や考察が必要です。国際情報専攻では、政治・経済・経営などに関する知識が身に付くだけでなく、その知識の評価の仕方、使い方を学びます。皆さんが、今、感じている問題意識について、教員の指導を受けるだけでなく、同じような問題意識を持っている仲間との意見交換を通じて、時代を読む力は身に付くのです。幅広い分野をカバーする国際情報専攻だからこそ経験できる機会を、積極的に活かすことで深い学びに繋がるでしょう。



博士前期課程 文化情報専攻の学修アドバイス 島田 めぐみ 教授

博士前期課程で最も重要な目標は、
自分の研究分野の研究手法を「マスター」することです。

文化情報専攻では、テキストや社会を研究対象とする文化研究コースと、言語や人を研究対象とする言語教育研究コースに分かれています。テキストにおける文化、社会における文化、言語における文化、人における文化など、多種多様で多層的な文化を研究の対象にします。その共通の基盤となるのが、文化間の出会いや往還により、文化は変容したり、混淆したり、新たに生み出されたりするものであるという文化の捉え方です。

このような観点から、比較文学や翻訳の研究、日本文学の研究、文化人類学の研究、言語変異の研究、言語習得の研究、言語文化教育の研究など、それぞれ自分の研究テーマに取り組みます。文化の捉え方は共通していても、研究分野によって研究手法は異なります。博士前期課程では、まず、自分が研究する分野の研究手法にはどのようなものがあるかを学び、それを「マスター」することが主要な目標になります。研究手法については、各ゼミで指導を受けることになりますが、自分の分野の論文を丹念に読み込むと、研究の進め方やまとめ方がイメージできるようになります。自分の思い描いた論文を書くためにも、まずは、主体的に先行研究をきちんと読むことをお勧めします。



修了の鍵は、時間管理と教員・学生間のネットワークの活用にあります！

修士課程は2年間ですが、2年次の12月には修士論文を提出しなければならず、逆算すると、論文をまとめる時間は、実質的には1年半ほどしかありません（長期履修制度を除く）。そのため、研究活動や論文作成のための時間的なスケジュールを明確に意識しておく必要があります（このことは、開講時のオリエンテーションや、必修科目であるスクーリングでも強調します）。大半の学生が社会人なので、日常生活を含め、いかに時間を有効に活用するかが大きなポイントになります。特に人間科学専攻では、ヒトを対象にした研究も多く、倫理審査が必要となる場合がありますが、時間と手間を要するため、その点を見込んでおくことも求められます。そのためには、分からないことや困ったことがあれば、教員に問い合わせて頂くことをお願いしています（直接の指導教員でなくても構いません）。またスクーリング、ゼミでの活動、オープン大学院等を通じ、同級生・在学生・修了生のネットワークを持てるよう、配慮しています。通信制の大学院ということで、一人で論文・レポート作成に取り組むイメージが強いと思いますが、学生同士の横の繋がりを活用することで、修士課程を限られた期間内で修了すると同時に、充実した大学院生活を送って頂きたいと希望しています。



通信制大学院で「博士」を取得するためには

最近では日本でも「博士」（ドクター）という称号の有無が仕事を行う際に大きな違いを生むことがあります。当大学院は通信制で学位取得が可能なので、仕事で忙しい皆さんにとってはチャンスです。

でも、もし当大学院の博士後期課程に入学されたら、ボヤボヤしてはいられません。2年半後の学位論文の提出が皆さんの「ミッション」だからです。博士論文に必要なのは独創性（オリジナリティー）なのですが、そのためにまず自分が目指している研究課題はこれまでにどんな研究がなされてきたかを徹底的に文献研究しましょう。「自分の着想こそユニークだ」と思っていたら、実はすでにその着想は2年前に某国の学会誌に掲載されていた、なんてことになったら、取り返しがつきません。

それから、自分の研究を学術雑誌に掲載するべく積極的に投稿しましょう。その理由は、まずそれが博士論文を執筆するための必要条件だからで、もう一つは、自分の論文を学術団体である専門学会に審査してもらうことによって研究内容をより深化させ、学術的な「お墨付き」を得られるからです。

こうした地道な努力の積み重ねが、3年後の学位取得へ導くでしょう。



入学試験・学費概要

< 博士前期課程 >

入学試験

試験日程

	入学試験期日	事前相談	出願期間	合格発表	入学手続期間
第1期試験	令和4年 11月5日(土)	～ 令和4年 10月21日(金)	令和4年10月17日(月) ～10月28日(金)〈必着〉	令和4年 11月14日(月)15時	令和4年11月14日(月) ～11月25日(金)
第2期試験	令和5年 2月4日(土)	～ 令和5年 1月20日(金)	令和5年1月16日(月) ～1月27日(金)〈必着〉	令和5年 2月13日(月)15時	令和5年2月13日(月) ～2月24日(金)
第3期試験	令和5年 3月4日(土)	～ 令和5年 2月17日(金)	令和5年2月20日(月) ～2月24日(金)〈必着〉	令和5年 3月10日(金)15時	令和5年3月10日(金) ～3月17日(金)

試験科目

①英語 (大学卒業後3年以上の者,または25歳以上で職歴・業務歴3年以上の者は免除可能)
(英和辞典使用可,電子辞書は使用不可)

②小論文

③口述試問

学費

単位:円

項目	令和5年度(1年次)		令和6年度(2年次)
	入学手続時の納入金額	2回目(9月)	2年次の納入金額
入学金	① 200,000	—	—
授業料	322,500	322,500	② 645,000
施設設備資金	75,000	75,000	② 150,000
小計	597,500	397,500	795,000
校友会費(準会員)	10,000	—	10,000
校友会費	—	—	10,000
年間合計	1,005,000		815,000

①本学の大学卒業生(本大学院修了者を含む)は入学金が免除。 ②2年次以降の納入金は2回(4月・9月)に分納。

※授業料・施設設備資金には,スクーリング受講費等を含みます。

各種奨学金

学業成績が優秀な方や経済的理由で学費等の支弁が困難な方を対象に以下の奨学金を設置しています。

- 日本大学古田奨学金
- 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金
- 日本大学大学院総合社会情報研究科坂東奨学金
- 日本学生支援機構奨学金(貸与)
- その他学外奨学金

長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、学修時間の確保が困難である学生のために、長期履修学生制度を導入しました。これにより、個人の事情に応じて学修計画に合わせた履修が可能となります。

対象者

職業を有し、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することを希望する学生を対象とします。

修業年限

標準2年の修業年限を3年とします。なお、在籍期間は4年を超えることはできません。

学費

長期履修学生として認められた場合の授業料等の納付については、標準修業年限で納付する総額を上記修業年限で納付することとする。

《長期履修学生授業料等納付金 博士前期課程》

単位：円

在学年数	項目	1年目		2年目		3年目		合計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
3年	授業料	322,500	107,500	215,000	215,000	215,000	215,000	1,290,000
	施設設備資金	75,000	25,000	50,000	50,000	50,000	50,000	300,000
	校友会費(準会員)	10,000	—	10,000	—	10,000	—	30,000
	校友会費(正会員)	—	—	—	—	—	10,000	10,000
	小計	407,500	132,500	275,000	265,000	275,000	275,000	1,630,000
	入学金	200,000	—	—	—	—	—	200,000
	合計	607,500	132,500	275,000	265,000	275,000	275,000	1,830,000

※本学の大学卒業生(本大学院修了者含む)は入学金が免除。

履修上限

1年間に16単位まで(特別研究を含めない)

特別研究

1年次～3年次に各2単位相当分

論文題目の届出

3年次の6月末日

論文の提出

面接質問終了後

奨学金

長期履修学生も奨学金(※古田奨学金, ロバート・F・ケネディ奨学金, 坂東奨学金)の対象になります。

申請要領

- 提出資料 ① 長期履修学生制度申請書(原本)※捺印必須 ② 在職証明書(原本)
- 提出先 日本大学通信教育部教務課
- 提出期間 開講式から起算して概ね10日後を締切日とする。
- 履修計画 入学時(開講式)に指導教員と履修計画含めて相談すること

長期履修学生の取り消し

長期履修学生として許可された者から、相当の理由を記載した願い出があった場合には、入学初年度2月末日までに取り消しを願い出し、3月開催の本研究科分科委員会の議を経て、長期履修学生を1度だけ取り消すことができる。取り消しが認められた場合は2年次に2年目・3年目の授業料等を納付することとする。

入学試験・学費概要

< 博士後期課程 >

入学試験

試験日程

	入学試験期日	事前相談	出願期間	合格発表	入学手続期間
第1期試験	令和5年 2月18日(土)	～ 令和5年 2月3日(金)	令和5年1月30日(月) ～2月10日(金)〈必着〉	令和5年 2月27日(月) 15時	令和5年2月27日(月) ～3月10日(金)

試験科目

①英語 (英和辞典使用可, 電子辞書は使用不可)

②小論文

③口述試問

学費

単位: 円

項目	令和5年度(1年次)		令和6年度(2年次)	令和7年度(3年次)
	入学手続時の納入金額	2回目(9月)	2年次の納入金額	3年次の納入金額
入学金	① 200,000	—	—	—
授業料	300,000	300,000	② 600,000	② 600,000
施設設備資金	75,000	75,000	② 150,000	② 150,000
小計	575,000	375,000	750,000	750,000
校友会費(準会員)	10,000	—	10,000	10,000
校友会費	—	—	—	10,000
年間合計	960,000		760,000	770,000

①本学の大学卒業生(本大学院修了者を含む)の入学金は免除。 ②2・3年次の納入金は2回(4月・9月)に分納。

※授業料・施設設備資金には、スクーリング受講費等を含みます。

各種奨学金

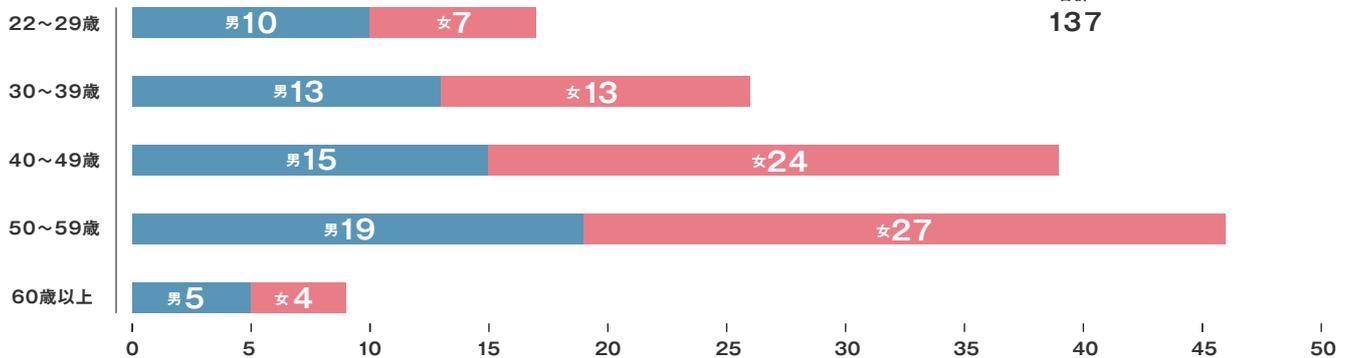
学業成績が優秀な方や経済的理由で学費等の支弁が困難な方を対象に以下の奨学金を設置しています。

- 日本大学古田奨学金
- 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金
- 日本大学大学院総合社会情報研究科坂東奨学金
- 日本学生支援機構奨学金(貸与)
- その他学外奨学金

学生データ <博士前期課程>

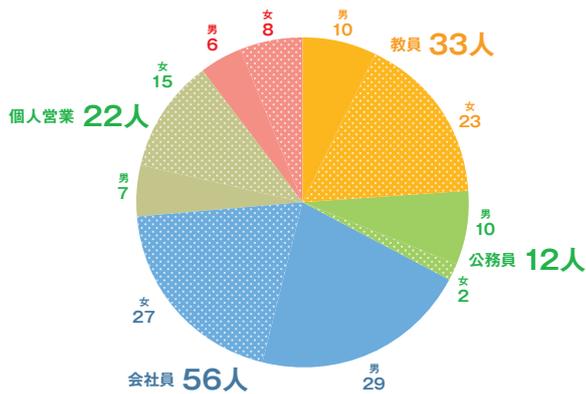
年齢層別学生数

男 62
女 75
合計 137

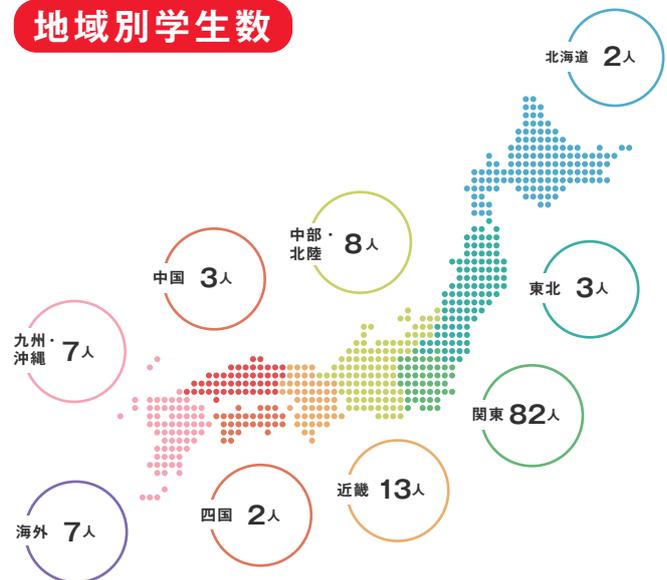


職業別学生数

主婦(夫)・その他の職業 14人



地域別学生数



総合社会情報研究科 修了者数

単位：人

専攻名	H29年度 修了者数	H30年度 修了者数	R元年度 修了者数	R2年度 修了者数	R3年度 修了者数
国際情報	9	14	22	5	12
文化情報	9	10	12	16	10
人間科学	22	23	25	26	18
合計	40	47	59	47	40

※過去5年間の平均修了率70.7%

入試状況

単位：人

専攻名		H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
国際情報	受験者	28	9	14	15	19
	入学者	26	7	14	13	11
文化情報	受験者	16	13	19	25	30
	入学者	15	13	18	21	22
人間科学	受験者	29	24	18	29	35
	入学者	28	22	18	29	34
合計	受験者	73	46	51	69	84
	入学者	69	42	50	63	67

※募集定員は各専攻30名 合計90名

キャンパス・学修環境

相談・対面指導・スクーリングを行うのは、
東京・市ヶ谷のアクセス便利なキャンパス。

通信制大学院でありながら個別指導が充実している総合社会情報研究科。

日本大学通信教育部と共用のキャンパスはいずれもJR市ヶ谷駅から徒歩5分以内とアクセスに便利な立地です。



日本大学通信教育部3号館

教員の研究室があるメインキャンパス。入学前の相談も3号館で実施しています。



研究室

特別研究(ゼミ)が行われる教員の研究室。
事前予約の上、対面指導を受けることができます。



日本大学通信教育部1号館

JR市ヶ谷駅から徒歩3分の1号館は、
入学後の相談場所として使用されています。

会社帰りや休日にも利用可能な日本大学図書館は
Wi-Fi完備、最大22時まで開館。

入学後は日本大学の図書館を利用することができます。

自習スペースもあるので、会社帰りや休日などに自宅以外の場所で勉強することも可能です。



図書館	最寄駅	開館時間(平日)	開館時間(土曜)
東京 法学部分館	水道橋駅	8:30~22:00	8:30~21:00 日曜10:00~17:00(特定日)
東京 文理学部分館	桜上水駅	9:00~20:00	9:00~19:00
東京 経済学部分館	水道橋駅	8:55~21:00	8:55~16:55
東京 商学部分館	祖師ヶ谷大蔵駅	9:00~21:00	9:00~18:30 日曜10:00~17:00(特定日)
東京 芸術学部 (江古田校舎)分館	江古田駅	9:00~21:00	9:00~17:00
東京 三軒茶屋キャンパス分館	三軒茶屋駅	9:00~21:00	9:00~14:00

図書館	最寄駅	開館時間(平日)	開館時間(土曜)
東京 理工学部 (駿河台校舎)分館	御茶ノ水駅	9:00~21:00	9:00~17:00
東京 医学部分館	大山駅	9:00~22:00	9:00~22:00
東京 歯学部分館	御茶ノ水駅	9:00~21:00	9:00~18:00
千葉 理工学部 (船橋校舎)分館	船橋日大前駅	9:00~21:00	9:00~17:00
千葉 生産工学部 (津田沼校舎)分館	京成大久保駅	9:00~20:00	9:00~17:00
千葉 生産工学部 実習校舎分館	実習駅	9:00~18:00	9:00~13:00

図書館	最寄駅	開館時間(平日)	開館時間(土曜)
千葉 松戸歯学部分館	松戸駅	9:00~21:00	9:00~18:00
千葉 薬学部分館	船橋日大前駅	9:00~19:00	9:00~18:00
神奈川 生物資源科学部 分館	六会日大前駅	9:00~21:00	9:00~18:00
静岡 国際関係学部分館	三島駅	9:00~20:00	9:00~17:00
福島 工学部分館	安積永盛駅	9:00~20:00	9:00~15:00

日本大学教育憲章

日本大学教育憲章とは

日本大学では「日本大学教育憲章」を制定し、
具体性のある指標のもと教育を展開することで、学生の学修成果の実質化を目指していきます。
(平成29年4月1日施行)

日本大学教育憲章の内容

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する
「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を維持することができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

自ら学ぶ

豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

世界の現状を理解し、説明する力

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

自ら考える

論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考、
批判的な思考をすることができる。

問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

自ら道をひらく

挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに
果敢に挑戦することができる。

コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

リーダーシップ・協働力

集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、
その活躍を支援することができる。

省察力

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

3つのポリシー

■ 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

「現代社会の種々の活動領域で、高度な専門的かつ総合的な認識力・判断力をもってそれぞれの専門分野で指導的立場に立つ職業人の養成及び既成の枠を超えて諸科学間の有機的な関連を獲得できる独自の学問研究者の育成を目指す」という総合社会情報研究科の教育目的達成のために、博士前期課程においては、以下のような知見と能力の修得を単位修得および修士論文によって例証した者に学位を授与する。

国際情報専攻

- ・ 国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済及び国際（関係）・政治の分野で、指導的かつ先端的な役割を担い、国際化・グローバル化の現代的課題に自主的に取り組むことができる資質・能力。
- ・ 実務家においては、それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力、及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力。
- ・ 研究者にあつては、学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し、論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力。

文化情報専攻

- ・ 多文化多言語社会の中で、多様な価値を受容し、相互理解を深めながら、地球市民として実務的・専門的立場からグローバル・コミュニティの構築に寄与する資質・能力。
- ・ 実務家においては、それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力、及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力。
- ・ 研究者にあつては、学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し、論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力。

人間科学専攻

- ・ 哲学、心理学、教育学、医療・健康科学、スポーツ科学に亘る諸領域において、現代社会の根本的なニーズに対応し人間存在の基本問題について、十全の認識・洞察を持って、問題解決に取り組むことができる資質・能力。
- ・ 実務家においては、それぞれの職場において顕在あるいは潜在している問題を発見して論理的な解決案を提案する問題解決力、及び解決案を実現するリーダーシップ力とコミュニケーション能力。
- ・ 研究者にあつては、学際的な観点から顕在あるいは潜在している課題を発見し、論理的に仮説を構築し検証を行う自律的研究遂行能力。

上記の資質・能力を身に付けたかどうかについては、以下の学修成果により判断する。

- 1) 専攻科目について24単位以上の修得
- 2) 特別研究において必要な研究指導を受ける
- 3) 下記の項目からなる修士論文の審査の合格
 - ① 研究目的、理論、研究方法、情報収集・処理の妥当性
 - ② 論旨の明確性および独創性

- ③ 論文の統合性および論証の一貫性
- ④ 研究成果の有意義性
- ⑤ 構成、形式、表現、表記の適切性
- 4) 最終試験に合格

カリキュラム・ポリシー

「現代社会の種々の活動領域で、高度な専門的かつ総合的な認識力・判断力をもってそれぞれの専門分野で指導的立場に立つ職業人の養成及び既成の枠を超えて諸科学間の有機的な関連を獲得できる独自の学問研究者の育成を目指す」という総合社会情報研究科の教育目的達成に向け、各専攻において、次のような方針で教育課程を編成し、コースワーク重視の教育を行う。

国際情報専攻

1. 初年次教育の必修科目（4単位）として国際情報論特講を設定し、以下の内容を実施する。

- 1) e-learningによる通信教育（在宅学修）経営・経済及び国際（関係）・政治の各分野において基礎となる専門知識の習得が可能となる基本書を選定し、あらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型の学修を行う。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。

2) スクーリング（対面授業）

- ① 経営・経済及び国際（関係）・政治の各分野において基礎となる専門知識の習得をさらに深めるために、アクティブラーニングや質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度とスクーリング終了後に提出されるレポートにより評価を行う。
- ② 質の高い修士論文の作成のために必要な基本的知識と能力の習得を目指し、質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度、及び研究計画書（研究経過報告書）により評価を行う。

2. 専門教育として、経営・経済の分野においては経済理論を中心とした科目群、グローバル経営戦略を中心とした科目群、ファミリービジネス論を中心とした科目群、国際（関係）・政治の分野においては国際情報論を中心とした科目群、現代政治論を中心とした科目群、をそれぞれ設定し、e-learningによる通信教育（在宅学修）を実施する。

基本書を選定し、あらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型の学修を行う。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。なお、専攻科目の選定にあたっては、特別研究の指導教員が学生の希望を尊重したうえで履修指導を行う。

3. 国際情勢の帰趨と世界と日本の在り方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済及び国際（関係）・政治の分野で、指導的かつ先端的な役割を担い、国際化・グローバル化の現代課題に自主的に取り組むことができる資質・能力を習得するため、特別研究を必修科目として設定し、以下の内容を実施する。審査に合格する修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証（検証）、論証（検証）結果の考察などについて、対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により、マンツーマン

の双方向型の学修を行う。学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等により評価を行う。

文化情報専攻

1. 初年次教育の必修科目（4単位）として文化情報論特講を設定し、以下の内容を実施する。

- 1) e-learningによる通信教育（在宅学修）文化研究及び言語教育研究の各分野において基礎となる専門知識の習得が可能となる基本書を選定し、あらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型の学修を行う。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。

2) スクーリング（対面授業）

- ① 文化研究及び言語教育研究の各分野において基礎となる専門知識の習得をさらに深めるために、アクティブラーニングや質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度とスクーリング終了後に提出されるレポートにより評価を行う。
- ② 質の高い修士論文の作成のために必要な基本的知識と能力の習得を目指し、質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度、及び研究計画書（研究経過報告書）により評価を行う。

2. 専門教育として、文化研究コースでは、比較文化関連科目、日本・東アジア圏文化関連科目、欧米圏文化関連科目群を設定し、比較文学を軸に文学や漫画など多様な文化的所産を歴史社会的文脈で理解する文化リテラシーを高める。言語教育研究コースでは、言語教育関連科目群、言語学関連科目群、日本語教育関連科目群、英語教育関連科目群を設定し、国境を越えて移動する人々の言語と文化の様相を理解し、支援する能力を向上させる。専門科目は、e-learningによる通信教育（在宅学修）を通して実施する。学修は、選定された基本書に対してあらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型に進められる。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。なお、専攻科目の選定にあたっては、特別研究の指導教員が学生の希望を尊重したうえで履修指導を行う。

3. 多文化多言語社会の中で、多様な価値を受容し、相互理解を深めながら、地球市民として実務的・専門的立場からグローバル・コミュニティの構築に寄与する資質・能力を習得するため、特別研究を必修科目として設定し、以下の内容を実施する。審査に合格する修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証（検証）、論証（検証）結果の考察などについて、対面式あるいはWEBを使ったゼミ形式により、ゼミ生同士の協働学修と教師と学生のマンツーマンの双方向型の学修を組み合わせた指導を行う。学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等により評価を行う。

人間科学専攻

1. 初年次教育の必修科目（4単位）として人間科学特講を設定し、以下の内容を実施する。

- 1) e-learningによる通信教育（在宅学修）人間科学

専攻の各分野において基礎となる専門知識の習得が可能となる基本書を選定し、あらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型の学修を行う。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。

2) スクーリング (対面授業)

① 人間科学専攻の各分野において基礎となる専門知識の習得をさらに深めるために、アクティブラーニングや質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度とスクーリング終了後に提出されるレポートにより評価を行う。

② 質の高い修士論文の作成のために必要な基本的知識と能力の習得を目指し、質疑を多く取り入れた双方向型の学修を行う。学修成果については、発表や発言などの参加度、及び研究計画書 (研究経過報告書) により評価を行う。

2. 専門教育として、哲学コースでは、人間の生き方と社会のあり方を追求する知力を育成し、現代社会の問題や人間の根源・幸福について論考を進める。心理学コースでは、心理学について十全の知識・認識を基盤にして、現代社会の根本的な課題とニーズに対応した問題解決のための検証能力をもった人材を育成する。教育学コースでは、教育現場で諸問題に対応できる理論的裏付けを持った実践的な対処策を策定・実施できる人材を育成する。医療・健康科学コースでは、医療・福祉、産業保健、および生命科学に関わる分野において、ヒトの健康の向上とリスク管理や安全教育のための支援システムを構築し、遂行できる人材を養成する。スポーツ科学コースでは、スポーツ科学理論を基盤に、スポーツの現代社会的問題を研究し、遂行できる人材を養成する。専門科目は、e-learning による通信教育 (在宅学修) を通じて実施する。学修は、選定された基本書に対してあらかじめ設定された課題についてレポートの提出とそれに対する担当教員の指導を繰り返す、双方向型で進められる。学修成果については、最終レポートの完成度、作成過程における質問、レポートの改善状況、等により評価を行う。なお、専攻科目の選定にあたっては、特別研究の指導教員が学生の希望を尊重したうえで履修指導を行う。

3. 公共機関と私企業とを問わず様々な社会的活動領域において、現代の先端的なニーズに対応し、人間存在の基本問題について十分な知見を持って活躍できる資質・能力を習得するため、特別研究を必修科目として設定し、以下の内容を実施する。審査に合格する修士論文を作成するために、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮説の構築、論証 (検証)、論証 (検証) 結果の考察などについて、対面式あるいは WEB を使ったゼミ形式により、ゼミ生同士の協働学修と教師と学生のマンツーマンの双方向型の学修を組み合わせた指導を行う。学修成果については、論文の完成度、論文作成過程におけるコミットメントの程度、等により評価を行う。

アドミッション・ポリシー

通信制の独立大学院として、現代社会の種々の活動領域で仕事や研究に従事しながら、高度な専門性を身につけ、新しい道を切り拓き、その分野をリードしていけるような人材を受け入れる。受け入れに当たっては、以下の2つの観点から、本研究科での学術生活で求められる①知識・能力、②思考力・判断力・

表現力、③主体的で協調的な態度について判断する。

(1) 論文試験により、各専攻分野について学士程度の知識をもち、提示された課題について所定の時間内に論理的に思考し、結論をどのようにするかを判断し、それらを文章として表現する、ことを求める。

(2) 面接試験により、より専門的な知識の習得、理解力、判断力、問題解決能力、リーダーシップ力、コミュニケーション力、自律的研究遂行能力を身に付ける可能性があるかどうかについて、判定する。上記の方針のもと、各専攻は次のような学生を歓迎する。

国際情報専攻

国際情勢の帰趨と世界と日本のあり方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済・政治・行政・国際関係・言論等の分野で、指導的かつ先端的な役割を担う人材として、国際化・グローバル化の現代課題に自主的に取り組むことを目指すもの。

文化情報専攻

言語と文化の教育、文化翻訳、異文化間コミュニケーション等の領域において文化の受信・発信・媒介のエキスパートとして、より良いグローバル・コミュニティの創生に寄与することを旨とする。

人間科学専攻

哲学、心理学、教育学、医療・健康科学、スポーツ科学にいたる諸領域において、現代社会に内在する問題について論考し、問題解決に取り組むことを目指すもの。

博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

先端的かつ高度な専門性と総合性を兼ね備えた研究者及び職業人を養成するとともに、自己啓発・自己実現を達成しようとする者を学術的に支援するため、以下のような知見と能力の修得を単位修得、博士論文、学会活動および業績などによって例証した者に学位を授与する。

- 1) 当該学術分野における理論、方法、情報に関する専門知識と自律的研究遂行能力
- 2) 学術的研究成果を国際社会・地域社会に還元するための情報発信力
- 3) 変化する社会環境や多様な価値観を読み解き、正当な批判と評価を行う判断力
- 4) 地球市民のモラルを修養し、公民社会の構築維持に寄与する実践力
- 5) 当該学術分野における広範かつ先端的な知識と社会経験に基づく教育指導力
- 6) 実社会活動と学術研究を相互補完させ、社会文化の総合的進展に寄与する能力

論文審査にあたっては、下記の審査項目に基づいて行う。

- 1) 研究主題、理論、研究方法、情報収集・処理の妥当性
- 2) 論旨の明確性および独創性

- 3) 論文の統合性および論証の一貫性
- 4) 構成、形式、表現、表記の適切性
- 5) 研究の学際性および超越性
- 6) 当該学術分野における評価と貢献度
- 7) 国内外に向けての発信情報としての可能性

カリキュラム・ポリシー

高度な専門性と総合性をもつ研究者及び職業人を育成するため、前期課程3専攻に基づいた3分野からなる組織構成とすることにより専門性を高めつつ、他分野の教員の指導も受けられる1専攻組織とすることにより広い分野にまたがる総合性を醸成する。学修・研究の進捗状況を定期的に評価・指導することに加え、研究の総合性を高めるため、1年次は秋季に1回、2年次は春季と秋季にそれぞれ各1回の口頭発表を行い、専門が異なる指導教員以外の教員による指導・評価を実施する。3年次には、研究者としての資質が獲得されたかどうかを問う予備試験を実施する。そのうえで、客観的指標として学術論文等の業績が十分かどうかを評価する。

アドミッション・ポリシー

高度な専門性と総合性をもつ研究者及び職業人を育成するため、以下の3点を満たす学生を求めている。

1. 各分野の専門家として、当該分野の知識・技能を十分有する学生。
2. 当該分野の発展に寄与するために、思考力・判断力・表現力に優れ、オリジナルな研究が遂行できる学生。
3. 他分野とも共同して研究ができ、社会貢献に意欲的な学生。



日本大学 大学院 総合社会情報研究科

〒102-8251 東京都千代田区五番町12-5 (日本大学通信教育部3号館)

入学に関する問い合わせ先: 日本大学通信教育部入学課

[TEL] 03-5275-8933 [FAX] 03-5275-8877

[E-mail] dld-nyuugakuka@nihon-u.ac.jp

<https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp>

受付時間: 10:00~18:00 (月~金) 9:00~13:00 (土)

